第２次

富田林市子ども読書活動推進計画

2018 年度　～　2022 年度

（平成３０年度）

とっぴ*ー

平成３０年３月

富田林市

はじめに

近年、わが国では少子高齢化が進み、子どもや子どもを取り巻く環境が大きく変化しています。本市においても、急速な少子高齢化の中、「子育てするなら富田林」を合言葉に、子育てしやすいまちづくりを重点施策に掲げ、子どもたちが心身ともに健やかに成長するよう環境整備を行っており、その取り組みの一つとして、平成２５年３月に「富田林市子ども読書活動推進計画」を策定いたしました。

この計画に基づいて、子どもたちが、それぞれの成長段階に応じた読書体験を持つことができ、豊かな心が育つように、保健センターでのブックスタート事業や学校と図書館が協力して取り組んでいる「読書通帳」の活用をはじめ、様々な事業を展開しています。

この度、この計画の５年間における取り組みの成果と課題を検証し、子どもたちの読書環境がさらに充実したものとなりますように、第２次計画を策定いたしました。本計画を推進するためには、行政をはじめ、家庭、学校、NPO やボランティア、そして地域の子どもに関わるすべての方々の連携・協働が必要となります。今後も皆様の一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、本計画の策定にあたり、アンケート調査へのご協力と貴重なご意見をいただきました市民並びに各種関係団体の皆様をはじめ、多大なるご尽力をいただきました、「第２次富田林市子ども読書活動推進計画策定委員会」の委員の皆様に、心より厚くお礼を申し上げます。

平成３０（2018）年３月

富田林市長　　多田　利喜

目次

第１章．第２次子ども読書活動推進計画の策定にあたって 1

第２章．子ども読書活動の現状　～子ども読書活動に関する調査の比較から～ 3

1. 子どもの読書環境に関する調査（施設調査）から 3

2. 子どもの読書に関するアンケート 11

（小学３年生・小学６年生・中学３年生の読書活動）から

３．４か月児健診受診保護者アンケートから 22

第３章．前計画期間の子ども読書活動と今後の推進 25

１．家庭における子ども読書活動の取り組みと成果・課題と方向性 25

2. 地域における子ども読書活動の取り組みと成果・課題と方向性 27

３．保育園・幼稚園における子ども読書活動の取り組みと成果・課題と方向性 30

４．学校における子ども読書活動の取り組みと成果・課題と方向性 32

５．図書館における子ども読書活動の取り組みと成果・課題と方向性 34

６．前計画期間の数値目標の検証 38

第４章．第２次子ども読書活動推進計画の推進のために 41

１．推進体制の整備 41

２．人材の育成・研修、協力体制 41

３．啓発・広報 41

４．数値目標 42

資料 43

富田林市の子ども読書活動推進に関する現状の調査の実施について 44

子どもの読書活動推進に関する法律 73

第２次子ども読書活動推進計画策定までの経過 75

第２次子ども読書活動推進計画策定委員名簿 76

◇本計画においては、2019 年５月１日より新元号への改元が予定されているため、
同年同月以降を西暦表記のみとしております。

第１章．第２次子ども読書活動推進計画の策定にあたって

富田林市では、平成 25（2013）年３月に「富田林市子ども読書活動推進計画」（以下「前計画」という）を策定し、関係部署、関係団体などが連携を図り、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動をおこなうことができるよう、積極的にそのための環境整備の推進を図ってきました。この間、国は平成 25（2013）年５月に「第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定し、大阪府は平成 28（2016）年３月に「第３次大阪府子ども読書活動推進計画」を策定しました。

富田林市においては、平成 28（2016）年９月に「富田林市教育大綱」を策定し、基本方針の１つに「生涯に渡って学べる環境づくりを推進します。」と掲げ、“市民の学習意欲が高まる中で、自らを高め、豊かな心をはぐくむことができるよう、学習ニーズに対応した暮らしを豊かにする情報提供を進め、誰もが気軽に学習できる環境を整え、市民一人ひとりの生涯にわたる学習活動を支援します。”と生涯学習環境の整備の支援を掲げています。そして、平成 29（2017）年３月には「富田林市総合ビジョン及び総合基本計画」を策定し、総合ビジョンでは、“未来を担う子どもたちが主体的に学び、これからの社会に活かすことができる教育の提供や、若者の育成、誰もが学び続けることができる生涯学習環境づくりを推進します。”とし、総合基本計画においては、生涯を通じた学びの推進における目標実現のための施策の１つに“図書館サービスの充実”を掲げており、“学校やボランティア団体等と連携しながら、子どもの読書習慣の定着を促進します。”としています。

前計画は平成 30（2018）年３月に５年の計画期間を終えることから、庁内に「第２次富田林市子ども読書活動推進計画策定委員会」を設置し、前計画期間の取り組みを検証し、前回実施した子どもの読書に関する調査内容を精査し、改めてこの度調査を実施しました。前計画の目的及び基本目標を継承し、調査よりこの５年間の変化を捉え、ここに「第２次富田林市子ども読書活動推進計画」を策定しました。

目的：常に子どものそばに本のある環境の継続をめざし、子どもの読書活動を支援する人を増やすこと、その知識やスキルアップを図り、人々の連携の強化によって子どもの読書活動のさらなる推進をめざします。

基本目標：子ども読書活動推進のために、以下の目標を定めます。

① 家庭・地域・学校での読書の機会と環境の充実

② 地域・学校・図書館などの連携

③ 読書推進の啓発

計画の期間：2018 年度 ～ 2022 年度

これまでの国・府の動向（前計画より抜粋）

国は子どもの読書活動を支援するため平成１２年を「子ども読書年」とし、平成１３年１２月に、「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行されました。同法では、すべての子どもがあらゆる機会に自主的に読書活動が行えるよう環境の整備が推進されることを基本理念として定め、国や地方公共団体の責務を明らかにするとともに、「子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画」を策定・公表することを定めています。

この法律に基づき、国は平成１４年８月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定し、これを受けて、大阪府は平成１５年１月に「大阪府子ども読書活動推進計画」を策定しました。その後、国は、平成２０年３月に「第二次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定、大阪府は平成２１年１月に、「大阪の教育力向上プラン」を策定し、基本方針の「子どもたちの豊かな心をはぐくみます」とした重点項目の中で、「読書力の推進」を挙げており、平成２３年には、この項目の具体的な推進計画でもある「第２次大阪府子ども読書活動推進計画」を策定しました。

◇第２章からの※印注記及び第３章表内資料においては、元号表記のみとしております。

第２章. 子ども読書活動の現状
～子ども読書活動に関する調査の比較から～

前計画策定時に実施した子どもの読書活動に関する調査を引き継ぎ、子どもの読書環境に関する調査として、市立及び私立の小学校、中学校、幼稚園、保育園、学童クラブ、市内にある高校へ施設調査、小学３年生、小学６年生、中学３年生に子どもの読書に関するアンケートを実施しました。

数値目標（38 ページ参照）に挙げた「読書が好き（小６）」については、平成 26（2014）年度の 48.9%（文部科学省が毎年実施する「全国学力・学習状況調査※1」より）を最高に平成 28（2016）年度は 44.5%まで減少していましたが、今回の調査では 46.4%に転じました。市立小学校・中学校及び学校図書館教育支援員※2 と図書館との連携により、昨年度から実施している「読書通帳」※3 の活用の効果もあらわれているのではないかとうかがえます。

調査の比較部分について、以下のとおりの表記を使用します。

・平成 24（2012）年度調査は「H24」、平成 29（2017）年度調査は「H29」と表記

・小学３年生、小学６年生、中学３年生は、それぞれ、「小３」「小６」「中３」と表記

今回の調査結果の詳細については、43 ページからの資料をご覧ください。

１．子どもの読書環境に関する調査（施設調査）から

保育園

【読書環境】

保育園は、H24から１園増え、園児は100人増えて1,807人在籍しており、就労する保護者が増えていることがうかがえます。

保育園の読書環境については、H24より大きな変化は見られませんが、年間100冊以上購入し、3,000冊以上所蔵している園もあります。多くの保育園では、図書館のリサイクル図書※4を活用する等、図書の充実を図っています。

図書館の団体貸出を利用している園では、H24と同様に、子どもたちと図書館を利用したいが、図書館が遠く、出かける機会や余裕がない理由で利用できない保育園が半数以上ありました。また、図書館は絵本が少ない、配本サービスがあれば助かるという意見もあり、団体貸出の利便性を検討する等、活性化を図る必要が求められています。

【読書活動】

毎日の集団活動のなかで読み聞かせがおこなわれており、H24と比較すると目に見えて活発になっています。先生による読み聞かせの頻度は、１日に３～４回以上おこなっている園が、６園から13園に増えており、午前中から昼食前、昼食後からおやつ前後の時間帯において、幅広く活発におこなわれています。

H24と比べると、子どもたちの日々のあらゆる活動のなかで本が活用されるようになっています。子どもが自由に見て楽しむ保育園が２園から15園に増え、観察や飼育・栽培やごっこ遊び、表現遊び、劇遊び等に大半の保育園が本を活用しています。また、H24には見られなかった、地震や災害などの本を避難訓練に活用しているところが12園あり、園児たちが災害について理解を深める取り組みにも本を活用していることがわかります。

保護者や市民ボランティアによる読み聞かせやおはなし会については、H24と比べても大きな変化はなく、保護者によるボランティアは困難で、市民ボランティアによる読書活動もあまり進んでいないことがうかがえます。各園で情報交換し、市民ボランティアの活力を活かし、読書活動の推進を図ることが必要と考えられます。

子どもの読書に関する行事等の開催については、園庭開放での子育て講座や出前講座の開催、本の貸出、誕生会や季節行事での読み聞かせを実施している園が半数以上に増えています。講座により、保護者に読み聞かせの大切さを伝え、本の貸出により家庭での読書活動に繋がることを意識していることがうかがえます。

【市立図書館に望むこと】

図書館に園児を連れて行くことはなかなか難しいので、団体貸出は、職員が図書館へ行き利用しているという保育園や、図書の配本サービスを希望する保育園が複数ありました。また、保育園に出向いて読み聞かせやおはなしをしてもらいたい、親子で本を楽しみ子育てに関する相談や保護者同士が交流・情報交換ができる場を求める意見もありました。

絵本や紙芝居等、たくさんの本に出会えるよう図書の充実を図り図書館を活用できるよう、環境整備と利用促進に努める必要があります。

【子どもの読書環境をよくするために取り組みたいこと】

園内の図書を充実したい、保護者に読み聞かせの大切さについて啓発していきたい保育園が、2園から10園に増えており、他の項目についてもすべて増加しています。H29から団体貸出を利用したいや、親子で絵本の楽しさ、心地よさに触れてほしいとの意見もあります。

幼稚園

【読書環境】

H24から２園休園、園児は656人減となり、988人在籍しています。幼稚園の読書環境については、H24からあまり変化は見られませんでした。図書館の団体貸出を利用している幼稚園は、一般の開館前に入りゆっくり貸出できて利用しやすく、図書館職員による大型絵本の読み聞かせが園児にとって良い経験になっているという意見や、子どもたちが選びやすいように絵本の表紙が見やすい本棚を増やしてほしいという意見もありました。団体貸出を利用していない幼稚園については、H24と同様に、図書館が遠く、出かける機会や余裕がないことが主な理由でした。図書館の団体貸出が利用できていない幼稚園の利用を図るには、物流を検討する必要が求められています。

【読書活動】

先生による読み聞かせの頻度は、14園が１日に１～２回おこなっており、時間帯は、降園前が13園といちばん多く、午前中や昼食後などにもおこなわれており、H24と同様に活発におこなわれています。読み聞かせ以外での本の活用方法では、観察や飼育・栽培などに活用、ごっこ遊び、表現遊び、劇遊びに活用している、子どもが自由に見て楽しんでいるは、14園に増えています。また、ほとんどの幼稚園で、地震や災害などの本を避難訓練に活用、参観日、季節の行事に活用、教師の教材研究、指導に活用されています。子どもたちの集団生活のあらゆる場で、本が活発に活用されていることがわかります。

保護者や市民ボランティアによる読み聞かせやおはなし会を実施している幼稚園については大きな変化はありませんが、多くの幼稚園において、午前と午後の時間帯に保護者や市民ボランティアによる読書活動の受け入れを継続して活発におこなわれています。

子どもの読書に関する行事等の開催については、14園において誕生会や季節行事での読み聞かせを実施しており、園児や保護者に本の貸出は、H24より3園から13園となり、長期休みに本の貸出をおこなう幼稚園も２園から９園に増えています。幼稚園での読書指導だけでなく、家庭での保護者との本の時間も大切にして取り組んでいることがうかがえます。

【市立図書館に望むこと】

園児と保護者との本の時間を大切にする啓発や、おすすめの本を知る機会を求める意見、図書館が遠く利用できないが、子どもたちに幼少期からいろんなジャンルのたくさんの絵本に出会わせたいので、移動図書館（自動車文庫つつじ号）※5に幼稚園に来てほしいという意見などがあり

ました。子どもたちがたくさんの本に出会えるよう図書の充実を図り、読書啓発と情報発信を進め、利用促進に努める必要があります。H24に希望があった保護者向けの講座の開催や出前講座の実施については、H25から図書館が実施している図書館出前講座※6を活用しています。

【子どもの読書環境をよくするために取り組みたいこと】

保護者に読み聞かせの大切さについて啓発するが 12 園、園内の図書を充実させるが 10 園あり、H24 と比べると半数以上増えており、子どもの読書指導において、読み聞かせが重要な役割を担い、保護者と園児が本を通じて触れ合うことの大切さが認識されていることがうかがえます。また、さらに園児に読み聞かせの機会をふやしたい、絵本と触れ合える環境を整えたいという園も多く、今後、より良い読書環境を整え、子どもの読書活動がますます活発になることが期待されます。

小学校

【読書環境】

児童数については、983 人減少しており、児童数はすべての学年で 1,000 人を割っています。所蔵冊数については、10,001 冊以上は２校から８校に増えており着実に増加しています。開館日数は、週５日開館校が減少していますが、児童が個人で利用できる昼休みと授業間の休み時間を開館する学校が増えています。

【読書活動】

授業での学校図書館の利用は、H29 は「図書の時間」が最も多く、「国語」、「社会」と続きます。利用する教科は学校差があり、多くの教科で利用する学校と限られた教科しか利用していない学校があります。学校図書館は、学校図書館教育支援員の読み聞かせや本の紹介を活かして、本で調べながら授業のできる場として活用されていることがわかります。

朝の読書※7 の時間は、すべての学校が継続しており、H29 は「週１回」から「週２回」に回数を増やした学校もあります。読む本の準備では、H24 は「学校図書館の本を使う」「自宅から」が目立ちましたが、H29 ではどの準備方法もほぼ同じようによく使われています。H24 に比べ H29 は全般的にすべての項目で効果があると答えており、意義と効果が理解され定着していることがうかがえます。

子ども読書活動に関連するボランティアの活用は増加しています。大半は学期に１回授業時間を使い、富田林おはなしの会等により子どもたちが絵本やおはなしを楽しむ機会を設けています。

その他の取り組みとして、H29 では「読書通帳の活用」、「とっぴーと読もう！富田林市読書感想文コンクール※8」「「帯とん」コンテスト※9」と「感想文を書こう！ＭＥＥＴ★富田林※10」など富田林市主催の企画に積極的に参加しています。

【市立図書館に望むこと】

月１回実施のブック便※11 の回数を増やしてほしい、調べ学習の資料の利用できる冊数を増やしてほしいとの要望があります。また、図書館見学や出前授業をおこなっている学校が、さらに図書館の協力を望むという意見があります。学校図書館と図書館の連携が進んでいることを評価し、今後のさらなる連携を求める意見もありました。

【子どもの読書環境をよくするために取り組みたいこと】

いずれの年度も蔵書の更新・充実や学校図書館の読書環境の改善・充実に取り組みたいところが多く、図書時間の充実と回答した学校が増えています。

中学校

【読書環境】

生徒数は、899 人減少しており、1 年生は 1,000 人に満たない人数となっています。所蔵冊数は、7,000 冊までの学校はなくなり、中学・高校で一つの学校図書館を利用している学校もあり、30,000 冊以上のところが 1 校増加しています。開館日数は、H24 と比べて開館日数・時間帯には大きな変化は見られません。中学校３校においては、小学校では開館していない放課後も開館しています。

【読書活動】

授業中の利用状況は、H29 は学期に数回程度が 8 校ともっとも多く、H29 は支援学級の授業で利用した学校が 1 校ありました。H29 の活用内容では、学校図書館に移動して授業をするが９校、教室で学校図書館の本を利用するは６校でした。

朝の読書は、9 校が実施しています。効果については、H24 に比べ H29 はほとんどの学校が複数の項目を選び、「読書習慣の定着」、「読書量の増加」については８校が選んでいます。

ボランティアの活用は、1 校が読み聞かせの導入を授業時間に始めたところであり、今後の広がりが期待されます。

読書活動の取り組みとして、「とっぴーと読もう！富田林市読書感想文コンクール」、「読書通

帳の活用」、「帯とんコンテスト」、「感想文を書こう！ＭＥＥＴ★富田林」等、富田林市主催の企画に参加しています。また、新しい取り組みであるビブリオバトル※12の実施校の広がりを期待します。

【市立図書館に望むこと】

教職員が働いている時間帯でも、研修のために図書館の本を借りられるシステムの希望がありました。

【子どもの読書環境をよくするために取り組みたいこと】

H24、H29ともに蔵書の更新・充実、学校図書館の読書環境の改善・充実に関する回答が多く、H29 は図書の時間の充実、本の読み聞かせや本の紹介等の充実も約半数の学校が回答しています。学校図書館と図書館が連携し、読書環境充実に向け努力が求められています。

高校

【読書環境】

生徒数は、５校平均でH29は、H24に比べて97%となっており、学年が下がるにつれ減少しています。少子化の現れであり、今後もより顕著になると思われます。

所蔵冊数は変化がありませんが、購入冊数は401～500冊が0校となり、1～300冊は、５校中４校でした。図書購入の減少となっています。

開館日数は、H29も昼休みと放課後を中心に週５日となっていますが、担当者が在室できる時間という回答もあり、専任者が必要とされています。

【読書活動】

利用状況については、本を教室で利用するだけでなく、学校図書館に移動して授業にも活用されており大きな変化はありません。朝の読書は H24 に１校実施されていましたが、H29 は0校となっています。新入生オリエンテーションは、全校で実施されており、学校生活においての学校図書館の利用をすすめています。

【市立図書館に望むこと】

図書館から配布しているＹＡ通信※13が興味深い内容と評価され、図書新聞づくりの参考にしているところもあります。図書館職員が作成したリストは、有効に利用されています。図書館か

らのさらなる情報発信の継続が必要です。

【子どもの読書環境をよくするために取り組みたいこと】

蔵書の更新と充実を全校が、学校図書館の読書環境の改善を４校があげています。やりたいことが多いが時間がない中、生徒の利用を充実させていきたいとの意見もあります。

学童クラブ※14

【読書環境】

H24 に 19 クラブだったものが、H29 には 24 クラブとなっており、１小学校内に２クラブ設置が増えています。少子化で児童数は減っていますが、在籍総人数は、H24 の 836 人から H29 は 1,028 人に増加しています。保護者の就労に伴って、児童が安全に過ごせる学童クラブの在籍数は増加しています。

所蔵冊数・購入冊数は、１クラブあたり大きな変化はありません。

図書館の団体貸出利用は、20 クラブありますが、学童クラブ配本便※15 が開始されてからも利用されていないクラブがあります。学童クラブ配本便をもっと周知し利便性を高めて、より活発に利用されるよう働きかけが必要です。また、紙芝居の数も種類も増やしてほしい、配本便では借りたい本が選べない、配本便の巡回頻度を増やしてほしいなどの意見がありました。

【読書活動】

H24 は先生による読み聞かせが、19 クラブ中 12 クラブありましたが、H29 は 24 クラブ中 10 クラブに減少しています。また、読み聞かせの頻度も、４クラブあった毎日が０クラブとなっています。先生が繁忙になって子どもと向き合う余裕がなくなっているのがうかがえます。理由としては、「個々に読書」や「人数が多い」が複数回答あります。読み聞かせ以外の活用方法においても、「子どもが自由に見て楽しむ」「教本に活用」がほとんどの意見です。

保護者やボランティアによる実施も、H24 は 19 クラブ中 13 クラブありましたが、今回は 24 クラブ中７クラブに減少しています。

【市立図書館に望むこと】

図書館から出張して読み聞かせやおはなし会をしてほしいという希望が多数ありました。

【子どもの読書環境をよくするために取り組みたいこと】

学童クラブ内にある本を充実させたい、読み聞かせの機会を増やしたい、本棚を設置して児童が図書を手に取りやすい環境にしたいなど、日々の生活のなかで子どもたちに本の楽しさを届けたいとの思いがうかがえます。

※1　全国学力・学習状況調査：文部科学省が平成 19 年度から実施している、全国的に児童・生徒の学力や学習状況を把握するための調査。小学６年生と中学３年生が対象で教科と生活習慣や学校環境に関する調査があります。

※2　学校図書館教育支援員：学校図書館に関わる業務を教員と連携してすすめる司書資格を持つ支援員。富田林市立全小・中学校に配置。

※3　読書通帳：読書のきっかけとなるように平成 28 年度に市内全小・中学校の児童・生徒に配布した、図書館オリジナルの読書の記録を記入する通帳型の手帳です。50 冊達成したら、図書館で“とっぴーハンコ”を押し、“とっぴーシール”５種類から１枚プレゼントし、学年に合わせた本の紹介リストをお渡しします。１冊終わるごとに新しい通帳をお渡しします。（市内在住で私立小・中学校に通学する児童・生徒にもお渡しします。）

※4　リサイクル図書：図書館の蔵書で役割を終えて不要となった本（複数所蔵本や保存年限を過ぎた雑誌等）を関連部署、施設等に譲渡しています。

※5　移動図書館（自動車文庫つつじ号）：自動車に図書や紙芝居を積み、図書館から離れた地域を中心に、市内 14 か所を巡回貸出しています。

※6　図書館出前講座：図書館から地域に出向いて子育て中の保護者、子どもと身近な大人の方へ、絵本や読み聞かせの大切さ楽しさを知ってもらい、乳幼児と絵本の出会いを誘い深めてもらうことを目的とした講座。

※7　朝の読書（朝の読書活動）：学校の授業が始まる前の 10 分間程度、全員が好きな本を読む取り組みで、朝読ともいいます。

※8　とっぴーと読もう！富田林市読書感想文コンクール：市・教育委員会が、平成 24 年度から開催している読書感想文コンクール。

※9　帯とんコンテスト：観光交流施設きらめきファクトリーが平成 28 年度から読書週間に合わせてお勧めの本のオリジナルの帯を作成するコンテスト。

※10　感想文を書こう！ＭＥＥＴ★富田林：平成 26 年度より高齢介護課が実施するコンクールで、認知症に関係のある本などの感想文を募集し、市主催の認知症フォーラムにて展示・発表・表彰をしています。

※11　ブック便：図書館から市立小・中学校の学校図書館への団体貸出本の配本便。

※12　ビブリオバトル：ゲーム感覚でお勧めの本を紹介しあう書評会のひとつで、特に読書から離れがちな中・高校生が本と出合うきっかけとして有効な取り組みです。

※13　YA 通信：図書館からの中・高校生向きの本の紹介リストで、テーマを設定して年６回発行しています。

※14　学童クラブ：保護者が就労等により昼間家庭にいない児童に対して、放課後の健全な育成を図るため、遊びや生活の場を提供しています。

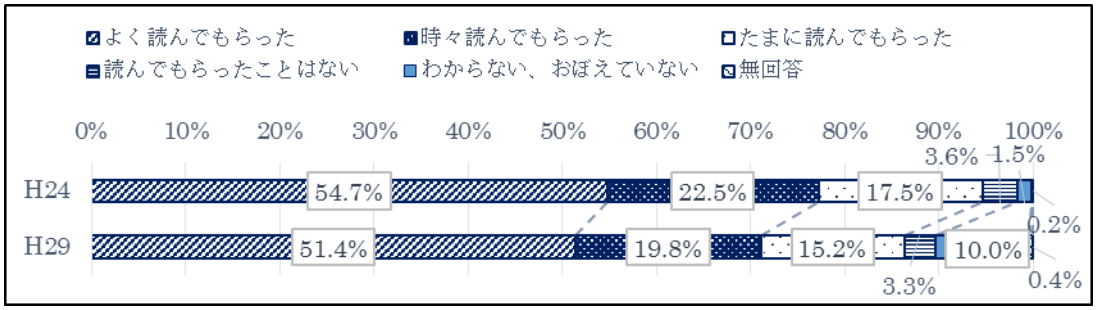
※15　学童クラブ配本便：平成 29 年２月から開始した市立小学校の学童クラブへの団体貸出本の配本便。

2. 子どもの読書に関するアンケート

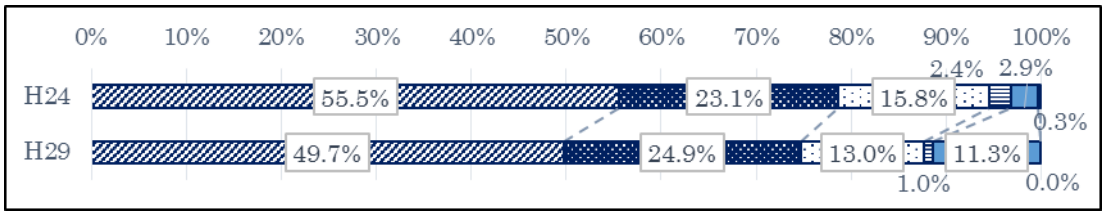
（小学３年生・小学６年生・中学３年生の読書活動）から

質問１　あなたは小さい頃、絵本や本を読んでもらいましたか。

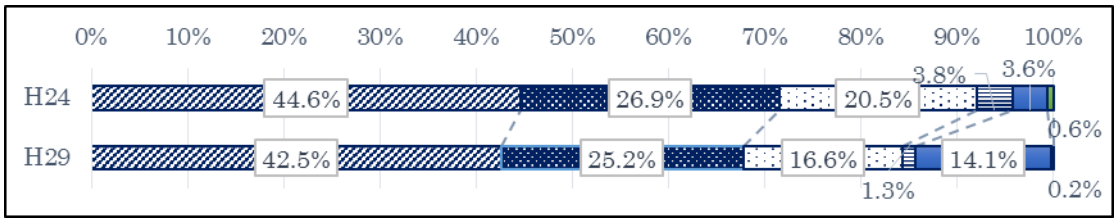
小３



小６



中３



『よく読んでもらった』の回答がすべての学年で減少しています。

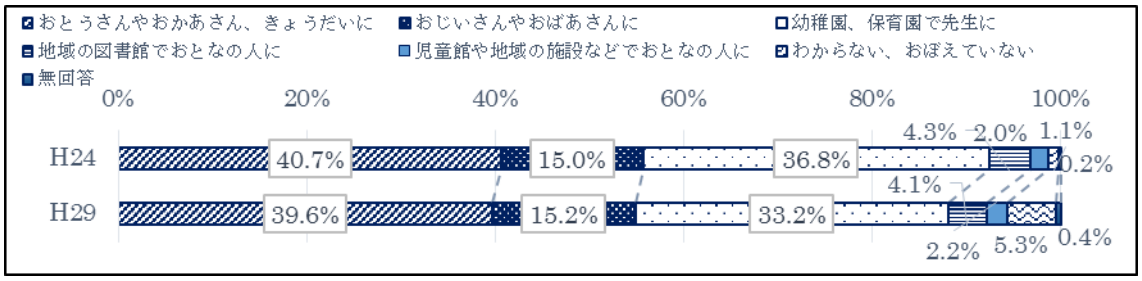
『時々読んでもらった』は、小６のみ若干増加していますが、小３、中３では減少しています。『たまに読んでもらった』も、すべての学年で減少しています。

時々、たまにも含めて読んでもらったことがある児童・生徒が、H24 では 90%以上ありますが、H29 では 80%台に減少しています。（小３：94.7%→86.4%、小６：94.4%→87.6%、中３：92.0%→84.3%）

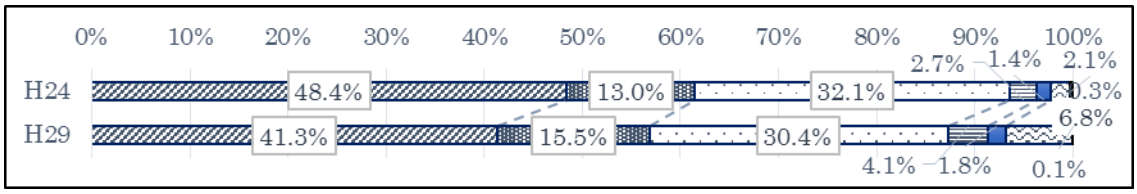
『読んでもらったことはない』の回答も、すべての学年で減少してはいますが、『わからない、おぼえていない』が、小３は 6.7 倍、小６、中３は 3.9 倍と大幅に増加しており、子どもたちの小さい頃の読み聞かせの体験が印象に残るものではなかったとも考えられ、頻度や継続すること、内容等を充分考慮して、年齢に応じた読み聞かせの体験を増やしていく必要があります。

質問２　それは、だれに読んでもらいましたか。（いくつでも）

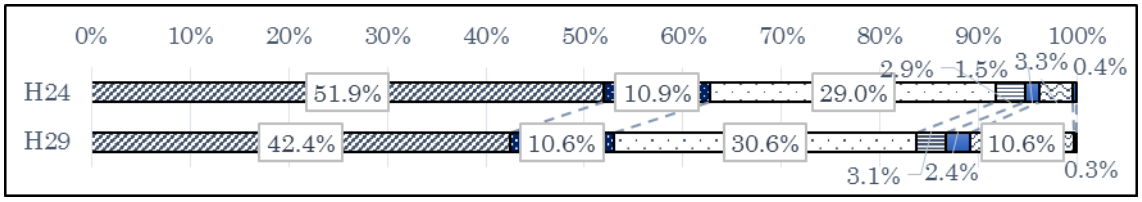
小３



小６



中３



『おとうさんやおかあさん、きょうだいに』は、すべての学年で減少しています。

『おじいさんやおばあさんに』は、小３、小６で増加、中３は減少しています。

『幼稚園、保育園で先生に』は小３、小６で減少、中３で増加しています。

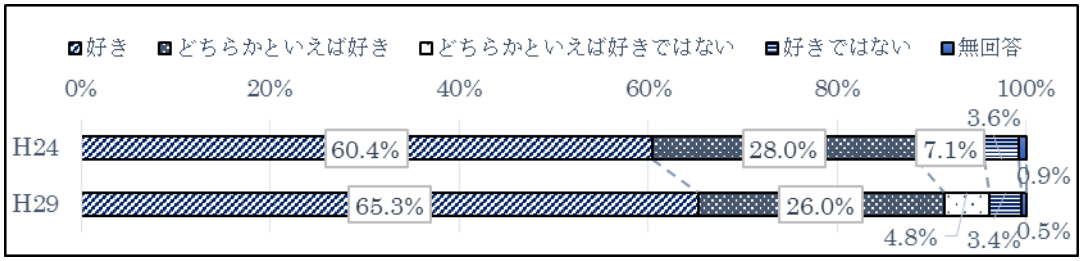
『地域の図書館でおとなの人に』は、小３はやや減少、小６、中３はやや増えています。

『児童館や地域の施設などでおとなの人に』は、すべての学年で増加となっています。

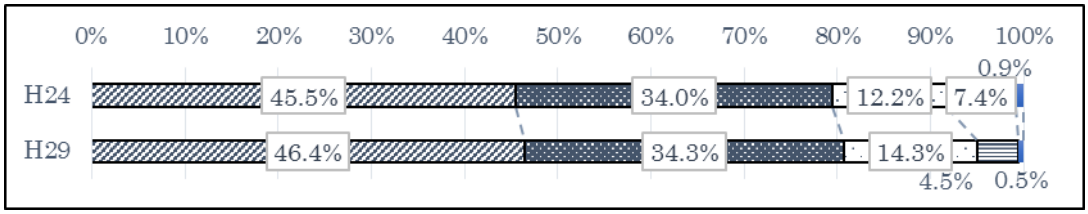
質問１で、小さい頃に時々やたまにでも読んでもらったことがある子どもが減少していることと、この質問で『おとうさんやおかあさん、きょうだいに』の回答が減少し『児童館や地域の施設などでおとなの人に』の回答が増加したことは、就労する保護者が増加し、家での読み聞かせ等の時間が持てないことのあらわれではないかと思われます。

質問３　読書が好きですか。

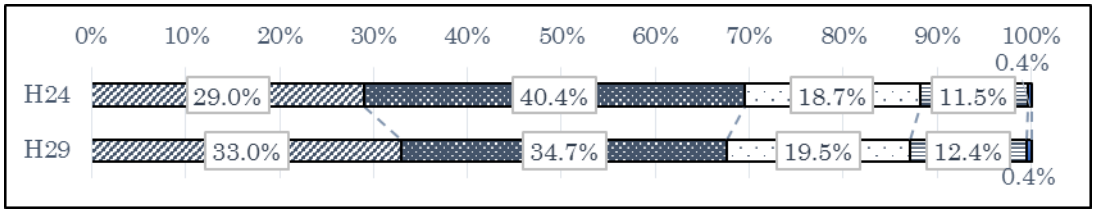
小３



小６



中３



『好き』と答えた児童・生徒は、すべての学年で増加しています。

『どちらかといえば好きではない』は、小３で減少、小６、中３で増加しています。

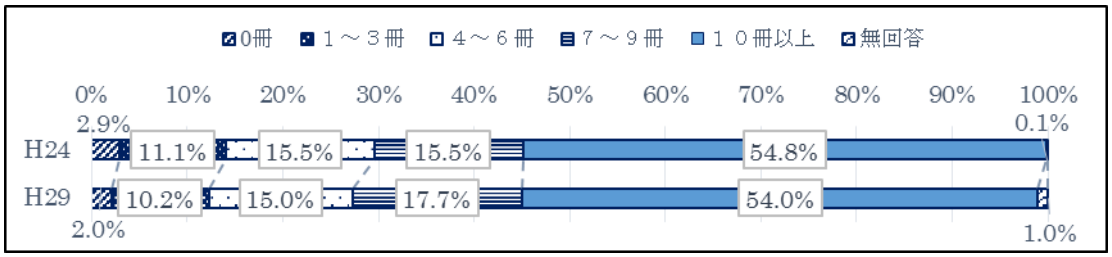
『好きではない』は、小３、小６では、減少していますが、中３では、増加しています。学年が上がるにつれ読書が好きではなくなる傾向がうかがえます。

読書が好きではないと答えた児童・生徒の理由をみると、『きらい、面倒だから』が、どの学年でも一番多くなっています。小６、中３では、『おもしろくない』『おもしろい本がないから』の回答も多く、児童・生徒の興味、関心に結びつくような本の紹介をしていくことで

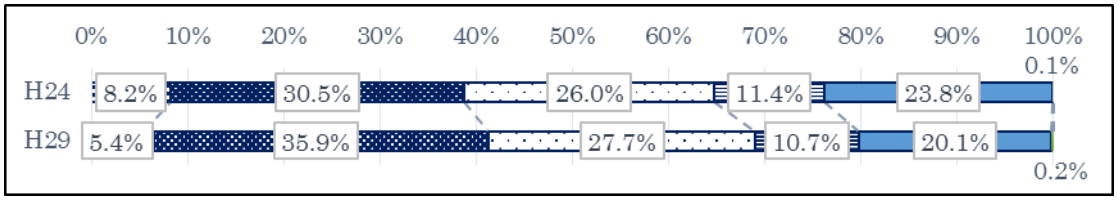
読書へ導くことができるよう、学校、学校図書館、図書館でさらに協力していくことが必要です。

質問４　この６月中で何冊ぐらい本を読みましたか。（教科書・マンガ・雑誌以外で）

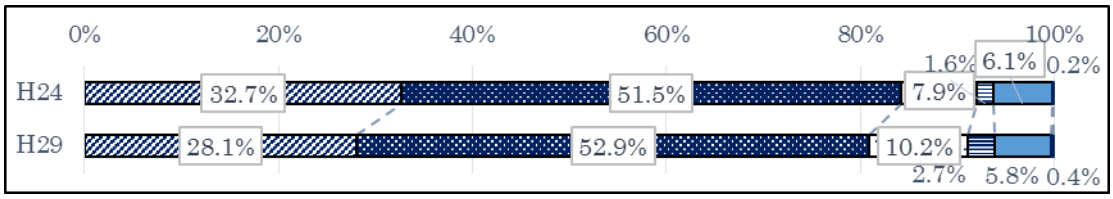
小３



小６



中３

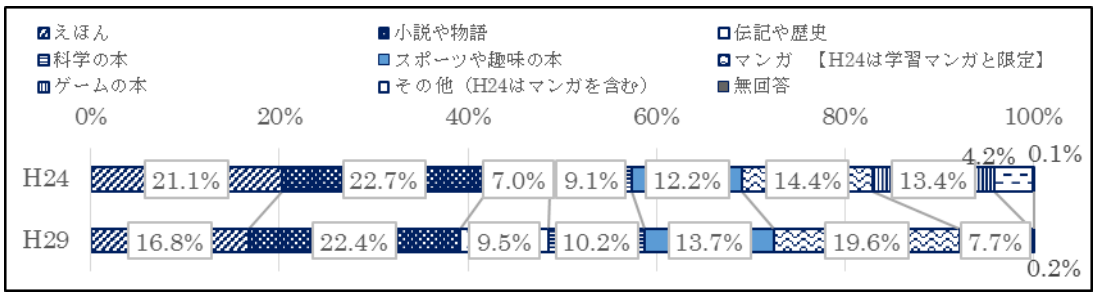


すべての学年で『０冊』の回答が減少（小３：0.9%、小６：2.8%、中３：4.6%減少）してはいますが、H29 では１冊も読まない児童・生徒が、小３から小６へ 2.7 倍、小６から中３へ 5.2 倍となっており、ここでも学年が上がるにつれて、読書離れがすすむことがあらわれています。小６、中３では、『1～3 冊』『4～6 冊』は増加しています。

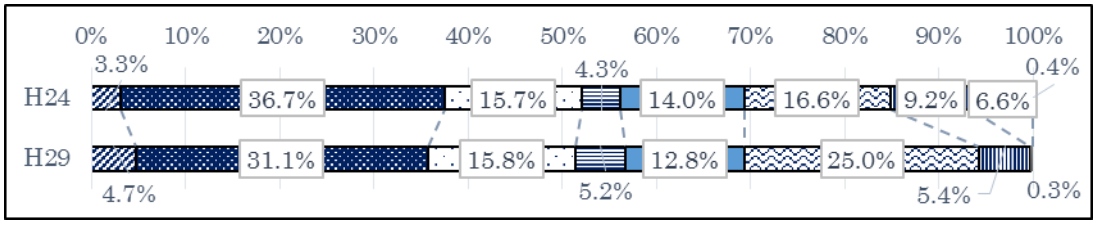
よく読んでいる『10 冊以上』の回答は、すべての学年で減少となってはいますが、小３では、半数以上の児童が『10 冊以上』と答えています。小６、中３と学年が上がるにつれこの数値は小さくなり、よく読んでいる児童・生徒でも、学年が上がるにつれ読書量が減少していることがうかがえます。

質問５　あなたは主にどんなものを読みますか。（３つまで）

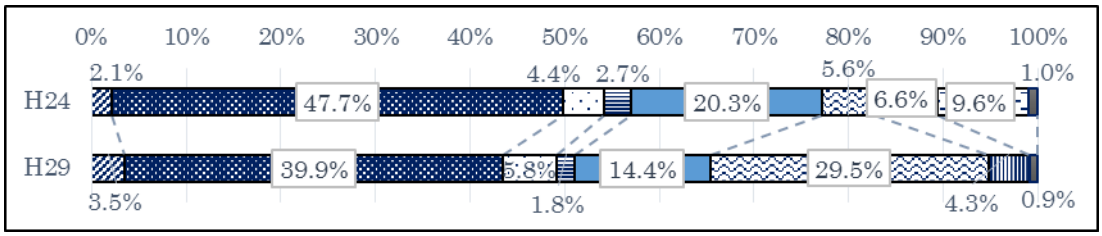
小３



小６



中３



H24、H29 ともに学年が上がるにつれて、『小説や物語』と『マンガ』が増えていき、H29 の中３では、その二つの分野で７割近くを占めています。

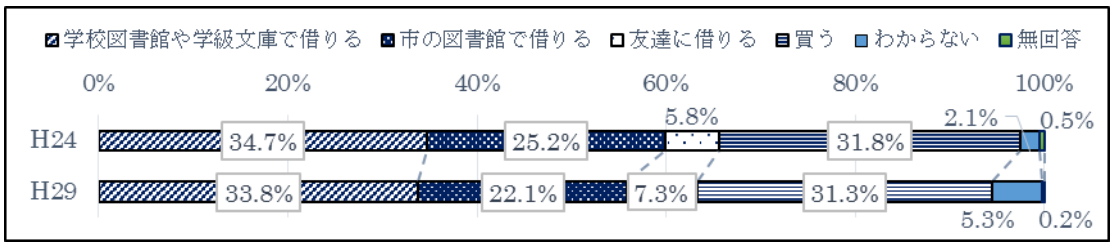
H24 はその他の欄にマンガと記入した児童・生徒が多く見られたので、今回の調査では『学習マンガ』と『その他』を削除し、『マンガ』の項目を追加しました。これにより、H24 の『学習マンガ』と『その他』を合わせた数値と、H29 の『マンガ』の数値で比べてみると、小３は 1.0%増、小６は 1.8%増と微増ですが、中３では、14.3%増加しており、H24 の約２倍となっています。

『マンガ』以外の項目でみると、小３では、『伝記や歴史』『科学の本』『スポーツや趣味の本』が増加しています。小６では、『えほん』『伝記や歴史』『科学の本』が増加、中３では、『えほん』『伝記や歴史』が増加しています。また、すべての学年で『ゲームの本』は減少しています。『えほん』『伝記や歴史』『科学の本』が増加しているのには、平成 24 年度より、「とっぴーと読もう！富田林市読書感想文コンクール」に向けて、毎年学校図書館教育支援員と図書館職員が協力して作成している本のテーマ別展示リスト※16 の配布効果も出てい

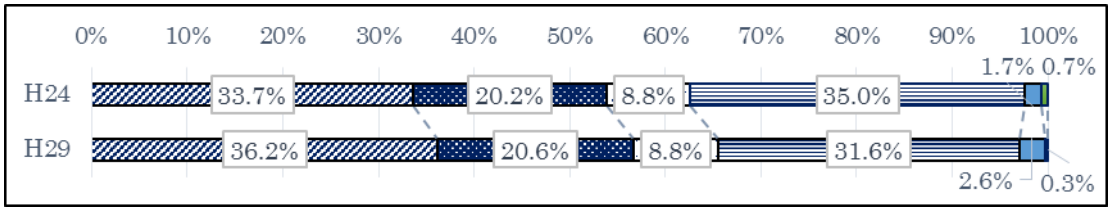
るのではないかとうかがえます。平成 24（2012）年度より「かがくの本」、「伝記の絵本」、「ものづくりの本」、「世界を知る」など、夏休み前から、伝記や歴史、地理、科学系とさまざまな分野の本を集めて図書館内でも本の展示・貸出をしています。小説や物語に比べて手に取りにくい分野の本を紹介することで、いろいろな本に出会ってもらう機会にしています。

質問６　読みたい本はどのようにして手に入れますか。（いくつでも）
（教科書・マンガ・雑誌以外で）

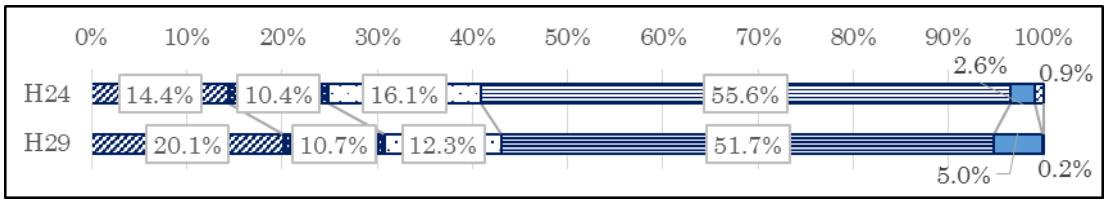
小３



小６



中３



『学校図書館や学級文庫で借りる』が、小３では 0.9%の減少ですが、小６で 2.5%増、中３で 5.7%増となっています。

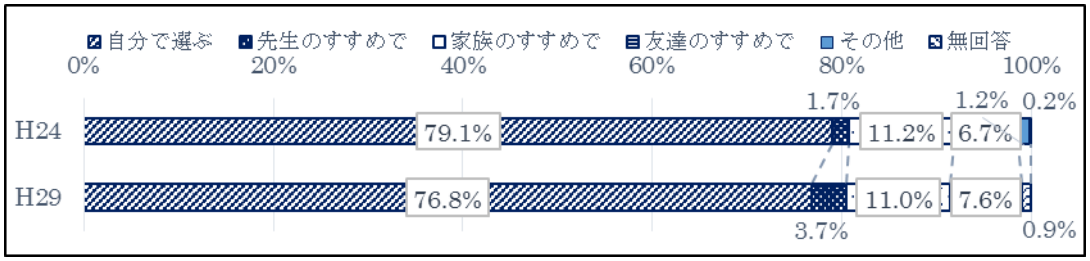
市立中学校の中３は、小学１年生のときから、学校図書館教育支援員が全校に配置され、図書館からも学校図書館へのブック便による学校図書館支援を開始しており、学校図書館で借りることになじんできていると考えられます。

今後も学校図書館教育支援員やブック便の環境が改善されれば、学校図書館の利用もさらに増加するのではないかと考えられます。

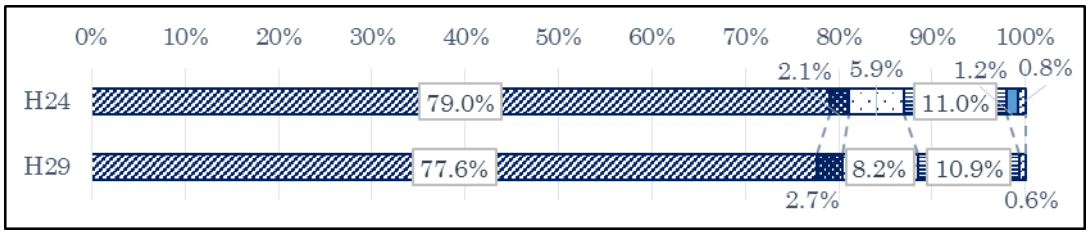
質問７　あなたは自分の読む本をどのようにして選んでいますか。

（教科書・マンガ・雑誌以外で）

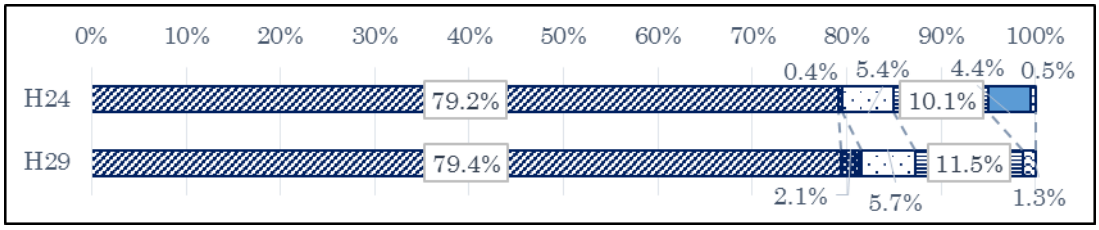
小３



小６

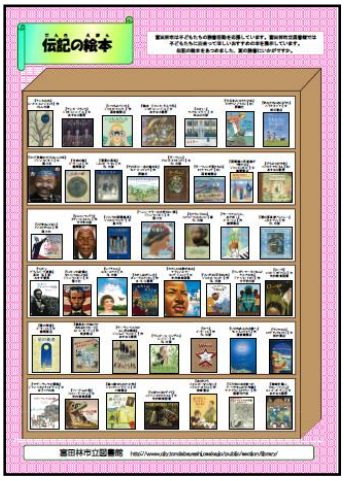


中３



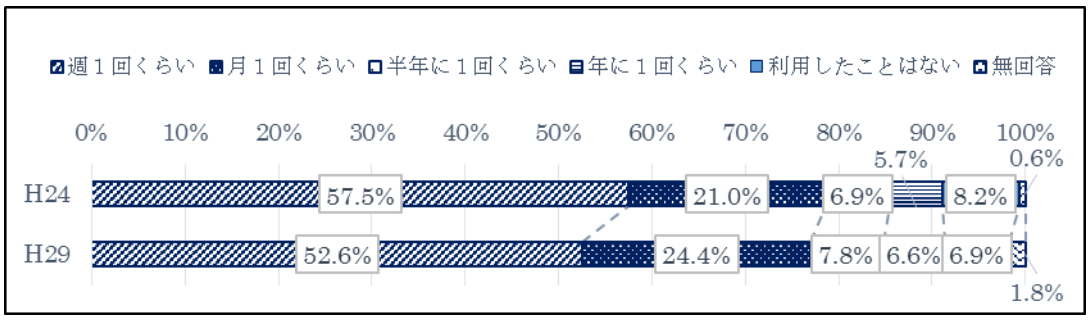
『自分で選ぶ』が80%近くを占めており、小３、小６では減少していますが、中３では増加しています。すべての学年で『先生のすすめ』が増加しています。特に中３では、５倍以上の伸びとなっています。児童・生徒にとって一番身近なおとなである先生や学校図書館教育支援員のすすめで選んでいることがうかがえます。

テーマ別展示リスト

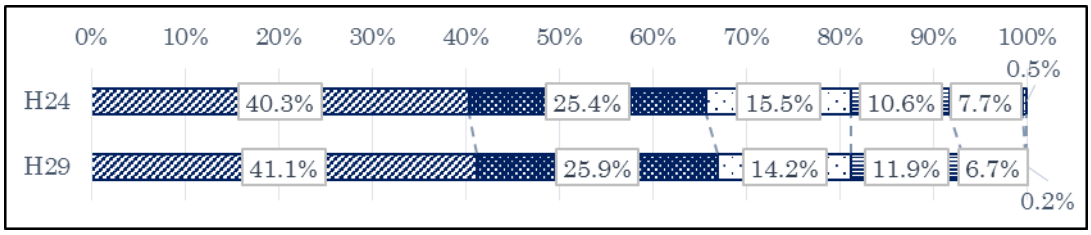


質問８　あなたは授業以外で学校図書館をどのくらい利用したことがありますか。

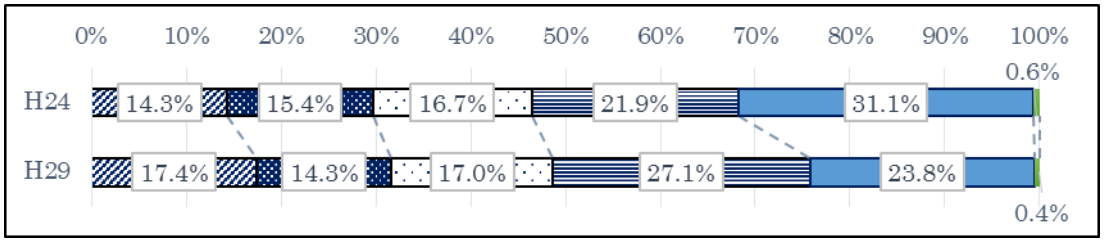
小３



小６



中３



『週１回くらい』の利用が、小６、中３で増加し、『利用したことはない』は、すべての学年で減少しています。特に中３の変化が大きく、『利用したことはない』が 7.3%減となっています。質問６の読みたい本をどのようにして手にいれるかとも関係しているとみられ、中３にも、学校図書館の利用が定着してきていることがうかがえます。

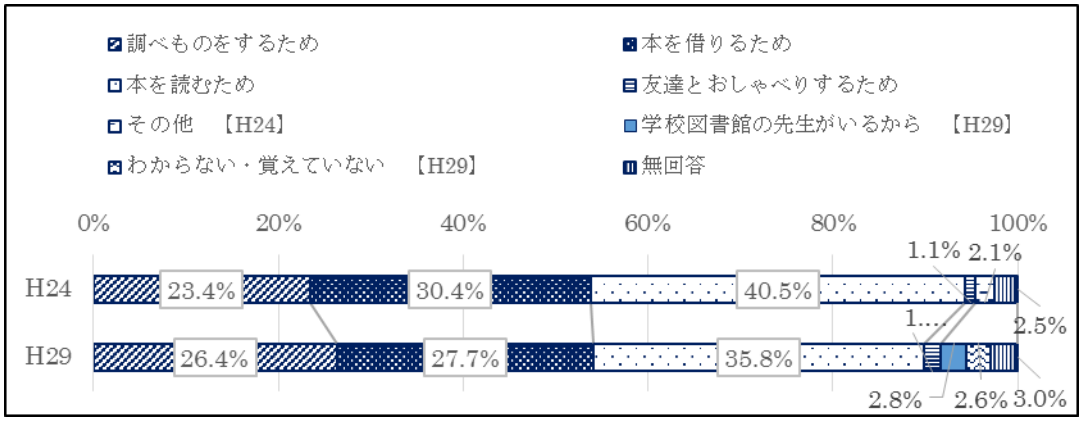
『利用したことはない』を選択した理由については、小３は、「休み時間は外で遊びたいから」、「時間がないから」が多く、小６では、「時間がないから」、「興味がない・面倒だから」、「外で遊びたいから」が多く、中３では、「特に理由はない」、「面倒だから」が多くなっています。

特に理由はない、興味がない、面倒だからの理由については、これからの働きかけにより、利用へと結びつけることができるのではと考えられます。

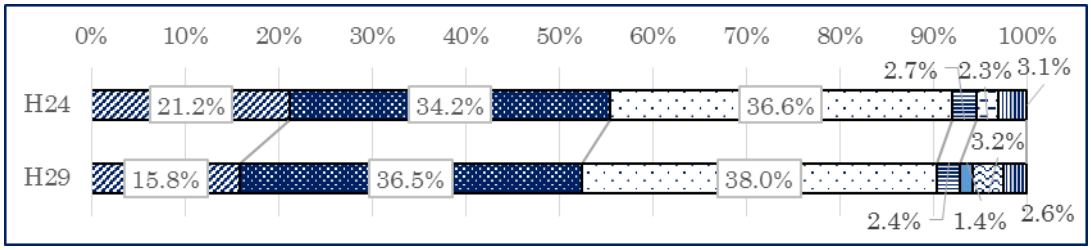
質問９　授業以外で学校図書館を利用したことがある人だけ答えてください。

あなたは授業以外で学校図書館をなんのために利用しましたか。（いくつでも）

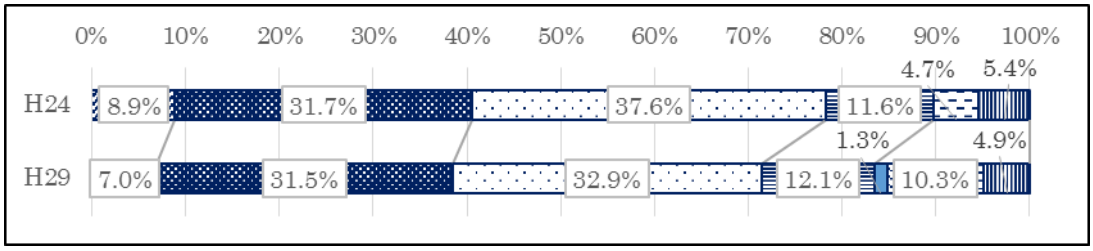
小３



小６



中３

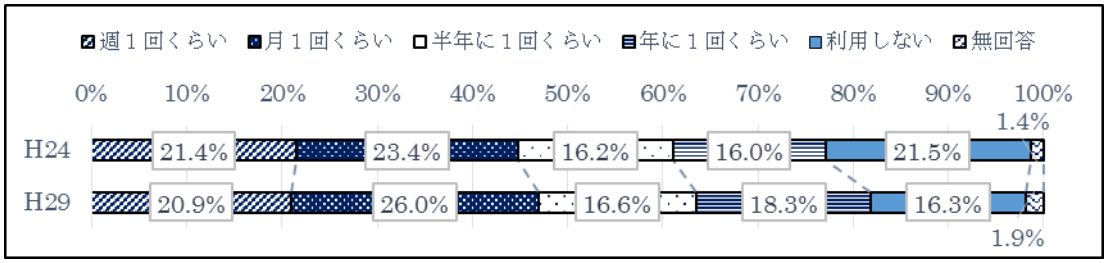


小３では、『調べものをするため』と『友達とおしゃべりするため』が増加、小６は、『本を借りるため』や『本を読むため』が増加、中３では、『友達とおしゃべりするため』が増加しています。

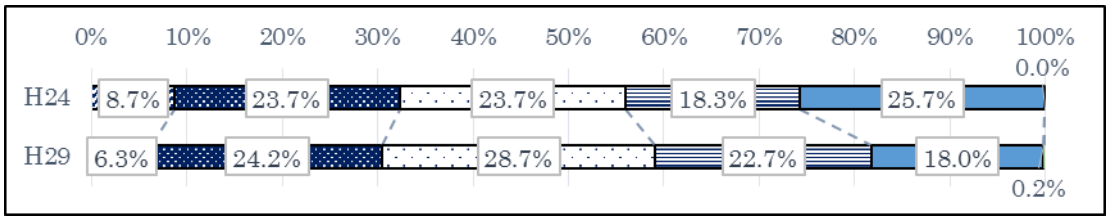
今回追加した『学校図書館の先生がいるから』は、数値は小さいですが、学校図書館担当の先生や学校図書館教育支援員の働きかけがうかがえます。

質問１０　あなたは市の図書館をどのくらい利用しますか。

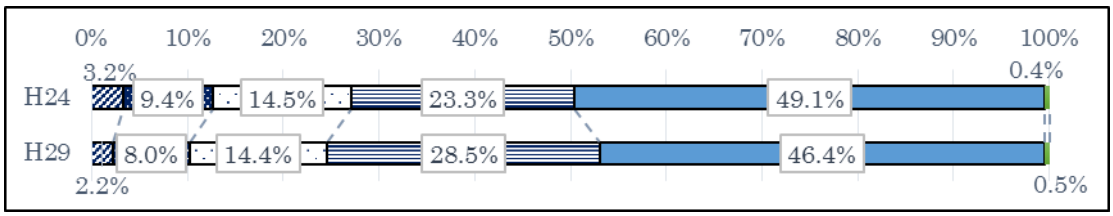
小３



小６



中３



すべての学年で『週１回くらい』が減少し、『月１回くらい』、『半年に１回くらい』は、小３、小６で増加し、『年に１回くらい』はすべての学年で増加しています。市の図書館を利用しない理由として、小３、小６で１番多いのは「時間がないから」となっており、中３でも４番目となっています。これには、子どもたちの忙しい生活や、保護者の就労による家族での図書館利用の減少も要因と推察されます。

児童・生徒が市の図書館を利用できる時間が普段は少なく、夏休み等の長期休暇に利用することとなり、『半年に１回』や『年１回』が多くなると考えられます。

『利用しない』は、すべての学年で減少しており、利用しない理由の中では、「時間がないから」が、小３、小６で一番多く、中３では「遠いから」が一番多い回答となっており子どもたちの身近に本がある環境整備が必要です。そのためには、子どもたちに一番身近な学校図書館の充実と図書館のブック便の充実等、さらなる連携体制が必要とされます。

【まとめと課題】

小さい頃の家庭での保護者等による読み聞かせ体験の減少は、保育園の在籍数の増加からうかがえるように就労する保護者が増加し、時間の余裕がないことが要因のひとつと考えられます。社会状況から今後ますますこの傾向が続く可能性があり、子どもたちが一日の長い時間を過ごす保育園、幼稚園、学校や、地域の児童館、図書館での読み聞かせを充実していくことが求められます。

すべての学年で読書が好きと回答した子どもが増えており、数値目標も回復に向かったこと、そして学校図書館を利用したことはないの回答が減少していることに、成果がみえます。平成19 年度から市立小・中学校では、学校図書館教育支援員が全校配置され、図書館からのブック便が開始されました。小学１年生時からその環境で過ごしてきた中学３年生の変化が大きく、学校図書館に人がいて、本があることの効果のあらわれと考えられます。今後も学校図書館の充実が求められます。

しかし、子どもたちの学年が上がるにつれ読書の量が減少し、読書が好きではなくなる傾向がうかがえたことに課題があります。読書が好きな子どもを育てるには、読書通帳の活用を工夫していくことや、中学校で新たに取り組まれているボランティアによるおはなし会やビブリオバトルの活用を広げていくこともひとつの方法と考えられます。

関連部署が主催している各読書感想文コンクールや帯とんコンテストへの参加をうながすことや、図書館から毎年配布しているテーマ別展示リストによるさまざまな分野の本の紹介は、本が好きでない子どもにも興味を持つきっかけとなります。

児童・生徒にとって、市立図書館の利用は、時間がないや遠いからの理由で利用しないが多くなっていますが、テーマ別展示リストは、夏休み前に配布しており休暇時の利用をうながすために、学校、学校図書館担当職員、図書館が協力し活用を積極的にしていくことも方法です。

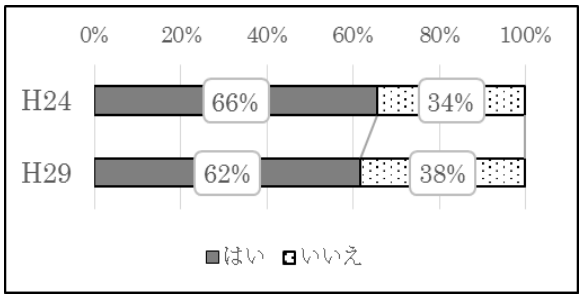
そして、多くの小学生が長期休暇を過ごす場である学童クラブへの図書館からの配本便の充実も課題となります。

今回の調査は、前計画との比較をするため、５年前の調査内容に基づき実施しましたが、社会状況の変化に伴い、今後は子どもたちを取り巻くインターネット環境にふれることが必要です。

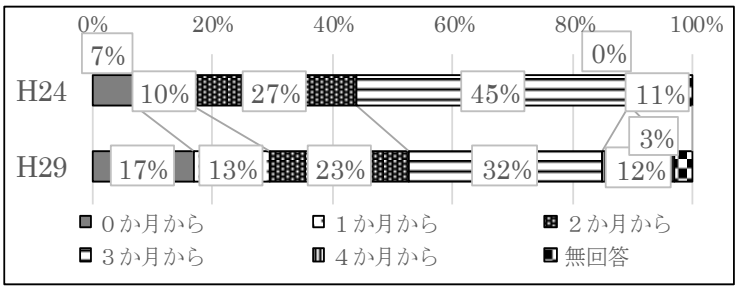
※16　テーマ別展示リスト：「とっぴーと読もう！読書感想文コンクール」の開催に合わせ、平成 24 年度のふるさと寄付金をきっかけとしてテーマ展示する本を図書館職員と学校図書館教育支援員が協力して選ぶ本のリスト。

３．４か月児健診受診保護者アンケートから

①お子さんに絵本を読んであげていますか



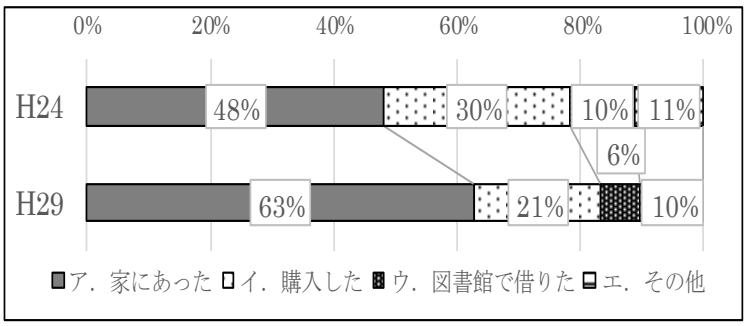
はじめて読んであげたのは



読んであげているは、減少し、読んであげいないは、増えています。

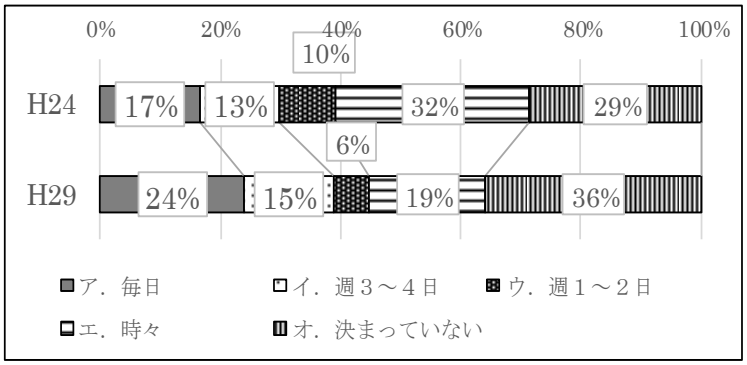
はじめて読んであげたのは、０か月からと４か月からが、大きく伸びています。平成 16 年から開始された ４ か月児健診でのブックスタート事業※17 での絵本を仲立ちとしてのふれあいが広がってきたことがうかがえます。

②読んであげている絵本は



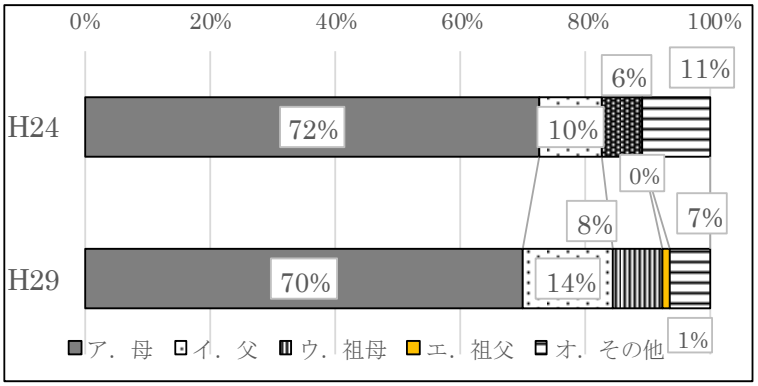
家にあったが、増加しています。乳幼児の生活に絵本が日常的に存在しているのがわかります。図書館で借りたが減少しているので、図書館からの働きかけを工夫する必要があります。

③どのくらいの頻度で読んであげていますか



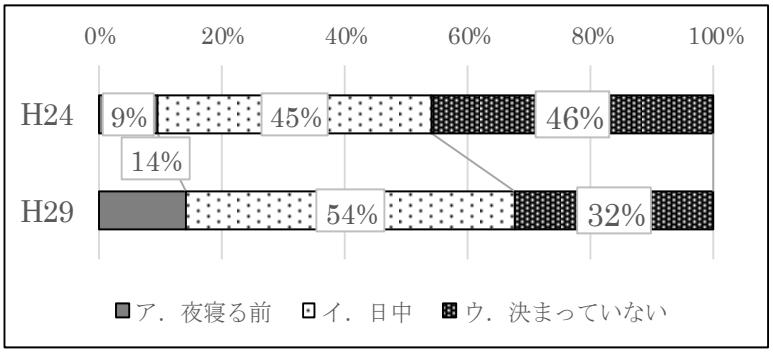
毎日が増加し、習慣となっている家庭が増えていることがうかがえます。

④主に読んであげている人は誰ですか。



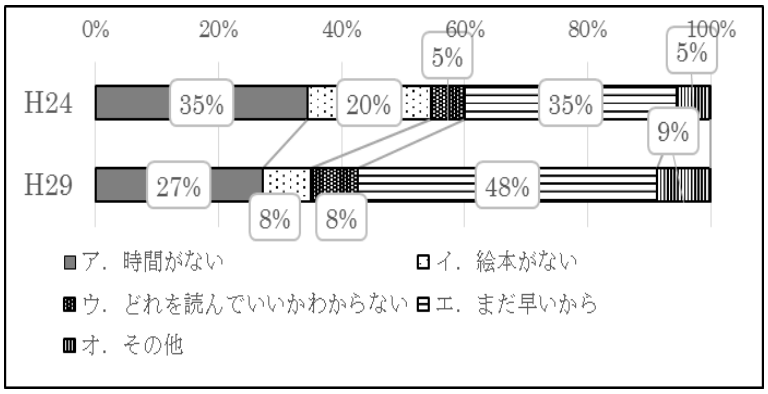
変わらず母が多いですが父が増えています。H24 には0%だった祖父も 1%ありました。社会状況にもみられるように、男性が育児に関わり始めていることがわかります。

⑤主にいつ読んでいますか



寝る前と日中が増加しており、決まっていないが減少しています。

⑥読んでいない理由は



時間がない、絵本がないが減少しています。どれを読んだらいいかわからない、まだ早いからが、増加しています。

⑦その他、絵本や読み聞かせについてのご質問・ご意見

- いつからどんな本を読んでいったらいいのかわからない。
- 今後どのような本を読ませていったら良いでしょうか。
- ４か月なのでオノマトペがメインのもので色がはっきりしているものが良いと聞いて購入しました。
- 読むと興味を示しますが長くは続きません。絵本はまだ早いのでしょうか。

・先日テレビで見たが、図書館で本を借りる際、本の殺菌消毒できるところもあるようです。富田林でもそれがあればこどもの本を借りるときに安心だと思う。

・０歳児におすすめの絵本を知りたいです。

・各月齢･年齢でどの様な絵本を読めば良いか、本に記載の対象年齢が少し先のものを読むべきか。同じ本を繰り返して読むべきか、新しい本をどんどん読むべきか。

【まとめと課題】

少子化により４か月児健診を受ける人数が減っていますが、絵本の配布率は 100%となっています。受診率が高く、保健センターの協力によりプレゼント絵本は受診対象者のすべての方に手渡すことができています。情報提供やブックスタートの現場での手ごたえは増していますが、読み聞かせの大切さが浸透しているとはいえません。

多忙な毎日を過ごされている乳児の保護者の方に、今の時期だからこそ大切にしていただきたい絵本を通してのふれあいを、さらに伝えていく必要があります。

※17　ブックスタート事業：保健センターでの４か月児健診時に、図書館から乳児に絵本をプレゼントし、図書館職員から保護者に絵本を通しての乳幼児とのふれあいの必要性等のお話をします。

中央図書館　あかちゃんの本棚コーナー

ブックスタート事業配布物

第３章.　前計画期間の子ども読書活動と今後の推進

前計画期間では、家庭、地域、保育園・幼稚園、学校、図書館のそれぞれにおいての子どもの読書活動について現状を把握し、これからの取り組みとして各事業の内容を示しました。本計画では、各事業について、前計画期間の取り組みと成果、そして課題をあきらかにし、今後の方向性を示してさらに推進していきます。

１．家庭における子ども読書活動の取り組みと成果・課題と方向性

家庭は、子どもが安心して健やかに育まれるための、もっとも基本的な生活の場です。絵本などの読み聞かせによって、情緒や言葉の発達、読書を楽しむ力を育てることができ、特に幼い子どもにとっては、家庭で読み聞かせなどに親しむことが、その後の読書活動を左右すると言われています。読み聞かせなど本を仲立ちとした親子間のふれあいは、幼い子どもたちと保護者に、安定した関係と楽しい時間をもたらします。

富田林市では、４か月児健診時にブックスタート事業を実施し、６か月以上のあかちゃんとその保護者を対象としてあかちゃんのおはなし会※18 を実施しています。また、毎年市立小学校に訪問し、新１年生オリエンテーション※19 を継続して実施し、保護者にも図書館利用の案内をしています。また、こどもインフォメーション※20 を市内全幼稚園・保育園と小学校の全員に配布し、家庭にさまざまな情報を届けています。

	事業名	内容	前計画期間の取り組みと成果	課題と方向性	担当
読書に関する理解の推進	ブックスタート事業	保健センターでの４か月児健診以降でも、健診の度に継続して絵本の読み聞かせの重要性を伝えていきます。 引き続き、協働するボランティアは、参加する親子に読み聞かせなど実施します。	プレゼント絵本の内容を毎年見直し、入れ替えをおこなっている。また、３冊のうちから１冊選べるようにした。	楽しい思い出の1冊となるよう絵本を選定し、プレゼントを継続していく。	保健センター・図書館
			保健師との連携も進み、当日受診しなかった人へも訪問の際届けてもらうなど、ほぼ全員にプレゼント絵本を配布できている。		
			絵本を通してのふれあいの大切さが保護者にも浸透しつつあり、読み聞かせが受け入れてもらいやすくなった。４か月児健診では、さまざまな子育て支援の関係者（つどいの広場、保育士等）が連携しており、図書館職員とボランティアは、健診の待ち時間を利用して、積極的に声をかけて読み聞かせをしている。	社会状況の変化に伴い、保護者への啓発をさらにすすめていく必要がある。読み聞かせの大切さをより一層伝えて、家庭で実行してもらう。	
			ボランティアとの連携強化のため、乳幼児サービス連絡会では、月１回の例会において情報を共有し、図書館開催の講座等においてスキルアップを図っている。	今後はボランティアの育成が課題である。	

	事業名	内容	前計画期間の取り組みと成果	課題と方向性	担当
読書に関する理解の推進	保健センターでの情報提供	保健センターでは、プレ☆ママパパの教室が開催されていますが、赤ちゃんの生まれる前から、読み聞かせが親子の安定したコミュニケーションをもたらす事や、その後の赤ちゃんの育ちの中での重要性を伝えていきます。	プレ☆ママパパの教室向けや年齢別「絵本で子育て」４種類のおすすめ絵本のリーフレットを作成し、成長に応じたきめ細かい情報を提供している。リーフレットは、毎年内容を見直し、改訂をしている。	プレママ☆パパの教室向けリーフレットを毎年改定し、引き続き配布する。さらに妊娠期から親が子どもの読書に関心を持つように、妊娠期の親に向けた絵本等の紹介リーフレットの配布をし、成長段階に応じた情報を提供していく。	保健センター・図書館
		保健師は、妊婦や子育て中の保護者に対し、健やかな育児に関する情報提供及び子育てにおける悩みや相談に対応し、健全な養育を支援して行く立場から、読み聞かせが親子に与える良い影響について、図書館や読書推進に関わるボランティアと連携して、家庭での読書を側面からサポートするように努めます。	保護者への読書に関する情報提供は、数値目標を上回った。ブックスタート事業における図書館との連携も深まり、図書館のあかちゃんのおはなし会での子育てに関するお話の時間も定着している。	図書館からの情報提供をさらに充実したものにして、保健センターはそれを一層活用していく。	
	あかちゃんのおはなし会	家庭での読み聞かせの重要性を伝えていくとともに、親子で参加するあかちゃんのおはなし会の対象を、現状の「6か月から1歳まで」を「6か月から1歳まで」「1歳から2歳まで」に拡大します。	図書館行事等への参加は、より低年齢化が進んでいるため、金剛図書館では「6か月から1歳まで」に加え、平成２４年１０月から「1歳から2歳まで」を開始した。さらに平成27年度より中央図書館でも開催し、より参加しやすくなった。	対象年齢を拡大することを検討し、保健師やボランティアと連携してより参加しやすいものにしていく。	図書館
			保健師からの子育てに関するお話も定着し、保健師との連携も深まり、参加者に役立っている。		
	小学生のオリエンテーション	小学１年生のオリエンテーションが、家庭での自発的な読書のきっかけになるように促します。	新１年生オリエンテーションでは、学校と図書館が協力し、各保護者へ図書館利用のお知らせを配布し、家族で図書館を利用し読書のきっかけとなるよう働きかけている。	家庭における読み聞かせや読書の大切さを伝えていくことが必要であり、さらなる取り組みを考えていかなければならない。	図書館
	関係課との連携（新規）	「感想文を書こう！ＭＥＥＴ★富田林コンクール」	平成26年度より高齢介護課が実施するコンクールで、認知症に関係のある本などの感想文を募集し、市主催の認知症フォーラムにて展示、発表、表彰をしている。図書館でも関連本を収集、展示、貸出の協力をしている。	コンクールをより周知して、テーマへの理解を深めるとともに、図書館は読書のきっかけづくりとなるよう協力する。	高齢介護課・図書館

※18　あかちゃんのおはなし会：ブックスタート事業のフォローアップとして、あかちゃんと絵本の出会いをさらに深めてもらうことを目的とし、あかちゃんとその保護者の方を対象としたおはなし会。わらべうたや手あそび、絵本の読み聞かせを一緒に楽しんでもらい、ゆったりとしたふれあいのひとときを過ごしてもらいます。

※19　新１年生オリエンテーション：市立全小学校に出向いて、図書館の役割や使い方を説明し、読書の楽しさや大切さを伝え、ブックトーク（テーマを決めての本の紹介）や大型絵本の読み聞かせをおこなっています。

※20　こどもインフォメーション：子育てや本についてのさまざまな子どもに関する情報を掲載し、生涯学習課より年９回発行しています。市立・私立の市内幼稚園・保育園・小学校の全員に配布しています。

２．地域における子ども読書活動の取り組みと成果・課題と方向性

富田林市では、「富田林市次世代育成支援行動計画」の理念を継承し、平成 27（2015）年３月策定の「富田林市子ども・子育て支援事業計画」の基本理念の中で、“親が子育てを主体的に担うことを前提としつつ、子育ち・子育てを地域全体で見守り、支えていく環境づくりをより一層進めることで、人々がいきいきと輝き、心が触れ合い、あかるい未来が見えるまちをめざす”としています。

そして、地域子ども・子育て支援事業として、保健センターの育児教室「ぴよぴよクラス」・「すくすくクラス」※21、児童館の「乳幼児クラブ事業」※22「小学生育成事業」※23、こども未来室の「つどいの広場事業」※24「地域子育て支援センター事業」※25「幼児健全発達支援チューリップ教室」※26「学童クラブ事業」、富田林市社会福祉協議会の「子育てサロン」※27 などのさまざまな場の講座や遊び、保護者間の自由な交流の中で、絵本の読み聞かせなどを取り入れ、地域での子ども読書活動がおこなわれています。

人権政策課では、平和の尊さを次世代に語り継ぐことを目的に、毎年８月に実施する「平和を考える戦争展」において、関連本を図書コーナーに設置し自由に読書できるようにしており、同時に図書館内でも「平和と戦争の本」として関連本の展示・貸出をしています。そして、人権文化センターでは、こども人権講座として、小学１年～4 年生対象に、絵本等を使用して人権の大切さを考える講座を実施しています。

また、とんだばやし国際交流協会が開催している「にほんごよみかき教室」は、日本語が習熟できていない人々を対象に「よみかき」を学ぶ場所であり、図書館の本を活用して、日本語を母語としない家庭への支援を継続して実施しています。

富田林市内で活動している４か所の子ども文庫が、地域の集会所などで長年にわたって活動し、地域の子どもたちに本との出会いの場を提供しています。

児童館　遊戯室・保育室

	事業名	内容	前計画期間の取り組みと成果	課題と方向性	担当
読書機会の拡大	児童館	本の充実に努め、本にかかわる講座をさらに充実します。	図書館からのリサイクル図書を活用し、保育室に750冊、遊戯室に1,975冊（平成２８年度末）の蔵書を設置。子どもが自由に楽しむことができ、児童館での活動に活用している。	図書館からのリサイクル図書の活用により、さらなる蔵書の充実を図る。	児童館・図書館
			ボランティアによるおはなし会については、乳幼児向け5クラス、小学１年生向けに10クラス実施しており、読書機会の充実を図っている。	新しいボランティアの養成や研修の必要性から、図書館のボランティア養成講座等を継続して活用していく。また、保護者へ絵本のよみきかせの大切さについて啓発する必要がある。	
			小学生育成事業では、給食後に40分間の読書タイムを設け、子どもが本にふれあう機会を提供し、乳幼児クラブ事業では、図書館からの出前講座を利用し、積極的に読書活動を推進している。	図書館出前講座、団体貸出、リサイクル図書をさらに活用していく。	
			乳幼児クラブ事業では、保護者同士の交流機会を提供し毎回絵本の読み聞かせをしている。4クラス開催しているが参加者が多く好評である。	４クラス開催している乳幼児クラブ事業は、好評であるため拡充する必要がある。	
	学童クラブ	読書ができる時間や紙芝居の時間を設けるなど、子どもたちの落ち着いた日常と、読書習慣を育成するよう努めます。	子ども同士で紙芝居を読み合う読書の時間を設けているため、図書館から多数の紙芝居を借りているところもある。	読書の時間を充実するため、図書館は本や紙芝居の種類を増やす必要がある。	こども未来室・図書館
		担当課の連絡箱なども利用して、図書館は団体貸出をしたり、絵本などの読書の情報等を提供します。	学童指導員会議の中で、図書館からの団体貸出等の説明を受けて、図書館利用の推進を図っている。	団体貸出、リサイクル図書をさらに活用していく。	
			図書館からの団体貸出は、担当課の連絡箱の利用に加え、平成２８年度より学童クラブ配本便も利用し、子どもたちの周りに本のある環境を提供し、読書活動を積極的に支援している。	図書館実施の学童クラブ配本便は、子どもの身近に本がある環境づくりの一助となっているが、必要とする本をすぐに利用できるように、年間３回の配本便の回数を、さらに増やしていくことが必要である。	
			図書館が配布する児童書や絵本の紹介リストの情報提供を活用している。	図書館からの情報提供をさらに充実させる。	
	子育てサロン	絵本の読み聞かせなど、親子が読書にふれることのできる機会を設けます。	図書館出前講座を利用し、子どもと身近な大人の方へ絵本や読み聞かせの楽しさを知ってもらう機会を提供している。	図書館出前講座をさらに活用していく。	富田林市社会福祉協議会・図書館
	子ども文庫活動	それぞれの文庫の特色を生かしながら、子どもと保護者が本に親しむ場の提供を行います。	４か所の子ども文庫が図書館の団体貸出を利用し活動の継続をしている。富田林子ども文庫連絡会の例会に図書館職員も参加し、月１回の情報交換・研修をしている。	図書館との連携、協力や団体貸出を今後も継続していく必要がある。	子ども文庫・図書館
			図書館開催の「なつやすみとしょかんおたのしみ会」出演に加え、平成２５年度より「春休みとしょかんリサイクル工作を楽しもう」の講師をし、子どもたちが図書館や本に親しむ機会に協力している。		

	事業名	内容	前計画期間の取り組みと成果	課題と方向性	担当
読書機会の拡大	（新規）市の関係施設	市の関係施設において、子どもが本に触れ合える機会を提供します。	観光交流施設きらめきファクトリーでは、「帯とんコンテスト」を開催し、子どもたちの読書のきっかけづくりをした。	図書館の協力により「帯とんコンテスト」を継続し、小・中・高校生の読書推進を図る。	市の関係施設・図書館
			平成29年9月に開館した若者の育成拠点であるきらめき創造館で、図書館のリサイクル図書コーナーを設置し、中・高校生への本が身近にある環境づくりと、読書活動の啓発の取り組みを開始した。	図書館からのリサイクル本を利用し、中・高校生への本が身近にある環境づくりを継続する。	
人材の育成	子育て支援にかかわる人々の読書に関する理解	子育て支援の活動にかかわるすべての人々が、読書についての研修や理解を深め、読書活動を推進できるように努めます。	平成25年度より、関係機関の子どもの読書活動を推進する実務担当者の交流・研修のために、図書館による子ども読書活動推進連絡会※28を立ち上げた。子どもの読書や、心身の発達等についての講演会を研修として開催し、関係機関の担当者が、情報交換やそれぞれの活動内容を発表し、お互いの活動を知る機会となっている。	子どもに関わる大人への研修を継続して実施し、人材の育成とスキルアップを目指す。	児童館・図書館
人材の育成と連携	ボランティア養成と情報発信	子ども読書活動にかかわるボランティアの育成と研修を実施し、読書推進にかかわるすべての人々のネットワーク作りを進めるとともに、 地域での読書活動の情報を収集し、発信します。	図書館では、あかちゃんのおはなし会やブックスタート事業等で協働するボランティアを養成するために、乳幼児サービスボランティア講座を継続して開催している。また、子どもに関わる大人への子どもの心を育てる絵本講座を開催している。	子どもに関わる大人への研修を継続して実施し、人材の育成とスキルアップを目指す。	児童館・図書館
			乳幼児サービス連絡会を月１回開催し、協働するボランティアのスキルアップと情報共有を図っている。		

※21　「ぴよぴよクラス」：5 か月～8 か月未満児対象、「すくすくクラス」：1 歳～1 歳 4 か月未満児対象で、母子分離での離乳食・育児講座、母児一緒で遊びや絵本の紹介、歯磨き方法等の話、保護者同士の交流会などをしています。

※22　乳幼児クラブ事業：乳幼児を持つ保護者同士の交流機会と、親子ふれあい遊びなどを通じて情報交換や子育ての知識を学ぶ場を提供しています。

※23　小学生育成事業：放課後児童の居場所提供と遊びや集団生活を通じての健全育成をしており学習、スポーツ、創作、読書、レクリエーション、遠足など様々な活動を実施しています。

※24　つどいの広場事業：主に乳幼児を持つ親と子どもが気軽に集い、うち解けた雰囲気の中で交流や育児相談が行える場に図書を置き、随時読み聞かせを行うとともに自由に親子に読んでいただいています。

※25　地域子育て支援センター事業：少子化や核家族化で子育てに悩みを持つ保育にあたる人に、子育てサークルや相談、指導などを通じて、育児支援を行っています。富貴の里保育園と梅の里保育園で実施しています。

※26　幼児健全発達支援チューリップ教室：１歳７か月児健康診査・３歳６か月児健康診査などで、集団の場において、フォローが必要と思われる子どもと保護者を対象に、年齢に応じた教室を開催。あそびを通して、親子

のふれあいを大切にし、子どもと保護者が楽しく過ごせるように援助したり、さまざまな相談に応じています。

※27　子育てサロン：富田林市社会福祉協議会の内部組織で地域福祉委員会(おおむね小学校区単位に結成された民間の自主的な団体で、校区内の身近な福祉問題を解決するために地域に組織されている各種団体の協力を得ながら福祉のまちづくりを進めている)活動の一環として、母子の閉じこもり防止や参加者相互の仲間作りを目的に地域で開催しています。

※28　子ども読書活動推進連絡会：市内に点在する子どもや子育てに関わるＮＰＯ法人や市民団体が、各々の活動の中で子ども読書活動を実施しており、各団体が情報交換によりお互いの活動内容を知り連携することで子ども読書活動の推進を図っています。

３．保育園・幼稚園における子ども読書活動の取り組みと成果・課題と方向性

前計画期間において、富田林市総合ビジョン【平成 29（2017）年３月発行】のなかで示された人口の推移によると、０～14 歳の年少人口は減少傾向で、平成 28（2016）年の人口全体に占める割合は 11.9%となっています。平成 29（2017）年現在、保育園は市立６園・私立９園、幼稚園は市立 10 園・私立６園あります。富田林市も少子化が進行する状況下にありますが、保育のニーズが高まっていることから、前計画期間に、保育園は１園増え、入所する子どもはやや増えていますが、幼稚園は２園が休園し、園児数も減っています。各園では、子どもの発達に応じた絵本の読み聞かせを活発におこない、図書館を活用した団体貸出や本とのふれあいの機会をつくり、また、家庭での読書機会を推進するため、図書の貸出を実施しています。

図書館出前講座

	事業名	内容	前計画期間の取り組みと成果	課題と方向性	担当
読書機会の拡大	絵本に親しむ機会の増大	年齢に応じた絵本を提供するとともに、子どもに絵本の楽しさを伝えていきます。また様々な機会を利用して、保護者とともに、絵本に親しむ機会を増やします。学齢期の準備として、家庭や園内以外での読書体験を増やし、小学校に入学してからの自由で自発的な読書につながるように努めます。	日々の集団生活の中で、子どもが自由に見て楽しんで絵本と触れ合う機会をふやし、子どもの年齢に応じた絵本の読み聞かせをおこなっている。また、幼稚園と一部の保育園では、子どもたちや保護者に図書の貸出をして、家庭でも本に親しむ機会をもてるように読書活動の推進を図っている。	絵本の読み聞かせをする機会を増やし、自由に本と触れ合う機会づくりに努める。また、園児や保護者に絵本の貸出をして、家庭で本に親しむ機会づくりに努める。	保育園・幼稚園・図書館
			クラス単位で図書館訪問時に、図書館職員による特大絵本の読み聞かせを楽しみ、本棚から自由に読みたい本を自分で選び、貸出をする体験を通して、本と触れ合うきっかけをつくった。年度を重ねるごとに、各園で時間を工面して、図書館訪問・団体貸出を活用するように努めた。	図書館訪問や団体貸出を活用し、園児が読みたい本を自分で選び、本と触れ合う機会を増やしていく。	
			誕生会や季節の行事に読み聞かせをおこない、保護者や市民ボランティア等の読み手によるおはなし会をおこなっている。	季節の行事で本を活用したり、保護者や市民ボランティアによるおはなし会の機会を増やしていく。	
			わくわく広場※29では、保育園と図書館が連携して、地域の親子が絵本を楽しむ機会をつくった。	連携により、地域の親子が絵本に楽しむ機会づくりに努める。	
読書環境の整備	園での読書環境の充実	園の絵本などの充実に努めるとともに、担当課の連絡箱なども利用して、図書館は団体貸出をしたり、絵本などの読書の情報等を提供します。	図書を購入して蔵書を増やし、寄贈の図書や図書館のリサイクル図書を活用して、図書の充実に努めている。	所蔵冊数を増やし、園の読書環境の充実に努めるとともに、図書館の団体貸出をさらに活用し、園児が多くの本と出会える環境づくりに努める。	保育園・幼稚園・図書館
			図書館の団体貸出を利用して、たくさんの本と出会う機会をつくっている。		
			庁内連絡便を通して、絵本や紙芝居、特大絵本の団体貸出を活用した。また、図書館が発行の「えほんいろいろ」や年齢別「絵本で子育て」のリーフレットの情報提供を、子どもたちと楽しむ絵本選びに活用した。	図書館の団体貸出や絵本リストなど本の情報を有効に活用していく。	
読書活動の啓発	子育て支援事業での読書活動の啓発	園庭開放やのびのび広場では子どもたちが自由に安心して遊んだり、仲間づくりをしたりする場所を提供する中で、絵本を活用した乳幼児の豊かな育ちをめざし、将来の読書習慣に結びつくように図書館と連携を進めます。	図書館職員が地域に出向く図書館出前講座を活用し、絵本の楽しさや読み聞かせの大切さを知ってもらう読書啓発にも努めている。	図書館出前講座を活用した読み聞かせの啓発や地域の親子が絵本に楽しむ機会をつくり、図書を貸出し、豊かな子育て支援に努める。	保育園・幼稚園・図書館
			保育園では、子育て支援ネットワーク事業※30で、就学前児童の子育てをおこなう家庭に、園庭開放を実施し、その活動の中で読み聞かせをおこない、地域の親子に図書の貸出をする。		
			市内の２つの幼稚園に設置された幼児教育センター※31では、就園前の幼児とその保護者に園庭や室内を開放した子育て支援をおこない、その活動の中で絵本の読み聞かせを取り入れたり、地域の親子が図書館出前講座に参加して絵本を楽しんでいる。	就園前の幼児の子育て支援の活動の場を提供し、絵本の読み聞かせを啓発していく。	

	事業名	内容	前計画期間の取り組みと成果	課題と方向性	担当
人材の育成	研修	保育士や幼稚園教諭は、絵本などの教材研究や指導方法の研究を行います。	教材研究、指導方法の研究に本を活用している。 園での図書館出前講座は、参加している保育士が絵本の大切さや楽しさを改めて学ぶ機会となっている。	引き続き絵本や読み聞かせについて教材研究や指導方法の研究を行い、学ぶ機会をつくる。	保育園・幼稚園

※29　わくわく広場：大型絵本やわらべうたやふれあいあそびを親子でたのしむ金剛保育園、金剛東保育園、金剛図書館共催の催しです。平成 26 年度から、年１回開催しています。

※30　子育て支援ネットワーク事業：公立保育園において園庭開放などを実施し、地域で就学前児童の子育てをおこなう家庭に、子育てに関する情報提供・助言・相談等を通じ保護者を支え児童が健やかに成長するよう支援します。また、妊婦家庭や０～2 歳の未就園幼児がいる家庭を訪問し、子育てに関する情報提供や相談。助言等をおこないます。

※31　幼児教育センター：子育て支援を目的として、就園前の幼児とその保護者に、園庭や室内を開放して遊んだり、交流などの活動をしています。富田林幼稚園と青葉丘幼稚園内に設置しています。

４．学校における子ども読書活動の取り組みと成果・課題と方向性

学校は、子どもたちが長時間過ごす学びの場として、本に親しみ読書を楽しみ、本を使って学ぶ喜びを体験できるように、学校図書館や教室に設置された学級文庫など、読書活動の環境の充実に努めました。また、読書習慣の定着に有意義な朝の読書活動や、ボランティアによるおはなし会をおこなうなど子どもと本をつなぐ取り組みを継続しています。

学校図書館には、学校図書館教育支援員を配置し、図書館との連携を深め読書センター、学習センターとして子どもたちの読書活動を推進しています。図書館のブック便等の団体貸出を活用し、調べ学習などの授業に対応した資料を準備し、また、子どもたちの多様な読書要求にも応えています。

読書通帳

	事業名	内容	前計画期間の取り組みと成果	課題と方向性	担当
読書機会の拡大	読書指導の充実	朝の読書活動などを子どもの読書体験の時間と位置づけ、学校や学級単位での読書活動が一層広がるような実践に取り組みます。	平成28年度に図書館から市内全小・中学校の児童・生徒に配布された読書通帳は、読書のきっかけや読書意欲の刺激となっている。学校図書館教育支援員の協力を得て、読書通帳を活用している。	読書通帳を継続し、活発な利用に結びついていない中学生の利用を促進していく。	学校
			朝の読書活動は、毎日実施している中学校が増え、小学校においても継続しておこなわれている。	朝の読書活動の効果を理解し、継続していく。	
			市・教育委員会が「とっぴーと読もう！読書感想文コンクール」を平成24年度から開催しており、児童・生徒の応募が年々増加している。	コンクールを通じて、児童・生徒の興味関心を高め、参加を促す。	
			小学3年生の図書館見学の実施校は平成25年度から若干増加傾向にあり、図書館を身近に感じる機会となっている。	図書館を身近かに感じることができる機会を作る。	
			ボランティアを活用してのおはなし会は、小学校では定着しており、中学校でも活用を始めた。	中学校においても、ボランティアによるおはなし会を活用していく。	
			新しい取り組みとして、中学校・高校でビブリオバトルを実施し始めた。	新しい取り組みの情報を共有し、読書につながる活動の実施に努める。	
		学校図書館や学級文庫、市立図書館の図書も活用して、障がいのある子どもたちの読書活動の推進を図ります。	図書館から、LL版利用案内※32が希望する支援学級に配布されており、図書館利用の情報提供となっている。	LL版図書等を活用して読書の推進に努める。	
読書環境の整備	学校図書館の充実	学校図書館は、「読書センター」として、発達段階に応じた多様な図書の収集に努めます。また、「学習情報センター」として、学習内容と関連した図書などを整備し、学習支援機能の充実に努めます。	平成29年度にスタートした学校図書館図書整備等5か年計画により学校司書が1名配置され、よりきめ細かな子ども読書活動の推進を始めた。	学校司書の１名配置により、さらなる読書活動の推進に努める。	教育総務課・教育指導室・学校・図書館
			図書館から配布される夏のおてがみに加え、テーマ別展示リスト、ＹＡ通信は、子どもと本を結びつける情報ツールとして役立てている。	図書館が配布しているリストを利用し、学校図書館の蔵書の更新・充実に取り組む。	
		国・府の交付金や、とんだばやしふるさと寄附金など様々な機会も活用し、資料の増加に努め、ブック便(図書館配本便)を利用した多様な資料や、調べ学習などで活用できる、授業に対応した資料の提供に努めます。	図書館の団体貸出本やリサイクル図書を学校図書館資料として活用している。	図書館の資料をさらに活用していく。	
	情報活用能力の育成	司書教諭や学校図書館教育支援員が協力して、図書館の使い方などを説明し、学校図書館を活用した調べ学習の推進を図ります。	本があって人がいる学校図書館を授業の場として、活発に利用している。	学校図書館教育支援員が、児童・生徒の読書活動と学習活動を支援できる体制の充実を進める。	学校
人材の育成、連携体制の強化	研修	読書指導や学校図書館の活用等の研修を通じて、教職員の指導力の向上を図ります。	各学校図書館発行のお便りや「とっぴーと読もう！読書感想文コンクール」を通じて、教員も本の紹介や図書館利用等の情報を得ている。	さまざまな情報や機会を活用し、教職員の指導力向上をめざす。	教育指導室・学校

	事業名	内容	前計画期間の取り組みと成果	課題と方向性	担当
人材の育成、連携体制の強化	読書活動をサポートする人のスキルアップ	多くの情報の中で、情報を選択し、使いこなす力を身につけるためには、子どもの読書活動をサポートする人が重要になります。そのために、司書教諭や学校図書館教育支援員の連絡会などにおける連携と相互研修、また、市立図書館との連携により、子どもの読書活動を支える人のスキルアップを図ります。	学校図書館教育支援員会議に加え、学校図書館教育支援員研修会を年4回継続して実施し、情報交換とスキルアップを図っている。図書館からも担当職員が参加し、情報を共有し、よりよい読書環境づくりに努めている。 平成25年度は、学校図書館がテーマの図書館主催講座に学校図書館教育支援員が参加し、学ぶ機会とした。	学校図書館教育支援員と図書館担当職員との連携を深め、スキルアップを図る。	教育指導室・学校・図書館

※32　ＬＬ版利用案内：図書館の利用案内をイラストや写真を使用し、知的障がいや学習障がいのある人でもやさしく読めるように作成したもの。

5．図書館における子ども読書活動の取り組みと成果・課題と方向性

図書館では、開館当初からよみきかせ・ストーリーテリング入門講座や子ども読書に関する講演会を実施し、よみきかせボランティアの育成と子ども読書啓発をおこなってきました。また、子育て支援と子ども読書活動推進として、大阪府の子育て支援交付金を活用して開始した乳幼児サービスボランティアの育成講座を８年継続し、図書館と協働するボランティアの育成、質の向上を図るとともに、家庭や地域で子どもに関わる大人に向けた子ども読書活動を啓発しています。

「富田林市子ども・子育て支援事業計画」の心豊かな子どもを育てる教育環境の充実のなかで、幼児・児童教育の充実において、“本市では、乳幼児期から本に親しみ豊かな心を育むことができるよう、図書館のブックスタート、おはなし会など各世代に適した事業やサービスにより、乳幼児と保護者のふれあいに力を入れています。” と示しています。保健センターと連携して実施しているブックスタート事業をはじめ、図書館に「あかちゃんのほんだな」を設置して、子育て支援情報を提供し、子どもの成長に合わせてあかちゃんのおはなし会、じゅうたんでのよみきかせやおはなし会を実施しています。学校を訪問して小学新１年生に図書館利用を促すオリエンテーションを実施し、小・中学校に読書通帳を配布して読書啓発をおこない、学校図書館へは、定期的にブック便での団体貸出で授業等の学習支援のサポートをしています。

子どもの身近な読書活動を促すために、保育園や幼稚園、小・中学校のクラス、子ども文庫、地域の子育て支援の場に団体貸出をおこない、保護者に向けた図書館出前講座を実施しています。

家庭、地域、園、学校などの関係機関に働きかけて連携をつくり、市民ボランティアとの協働を図り、あかちゃんから子どもの発達段階に合わせたさまざまな乳幼児サービス、児童サービスの展開を継続しています。さらに、きらめき創造館で、中・高校生に向けた読書啓発もおこなっていきます。

	事業名	内容	前計画期間の取り組みと成果	課題と方向性	担当
読書環境の整備	資料の充実	子どもの多様なニーズにこたえる資料の充実に努めるとともに、外国語や視聴覚資料などを含め、魅力的な資料を収集します。	ふるさと寄附金を充当し、富田林市として児童書の充実に努めている。	ふるさと寄附金等を活用し、児童書の充実に努める。	図書館
			平成２５年度・２６年度に富田林南ロータリークラブより児童向け、青少年向け図書の寄贈があり、蔵書の充実となった。		
			中央図書館にもあかちゃんのほんだなを設置し、成長に応じて選べるように本の背にラベルを貼り、保護者が選ぶ手立てとなった。	子どもたちや保護者がより利用しやすい本棚づくりに努め、本を手に取りやすいように工夫を重ねて魅力ある図書館にしていく。	
			年齢別「絵本で子育て」のリーフレットで紹介した絵本の背に目安となる年齢の表示や、「夏のおてがみ」に載せたよみものにはポップで紹介文を貼り、保護者や子どもたちが手に取りやすいように工夫し、利用の促進につながった。		
	子どもたちのためのお話会	子どもを対象とした読み聞かせなどを充実させます。	「あかちゃんのおはなし会」は、平成２７年度より中央図書館でも開始した。保健師との連携による子育てに役立つお話は定着し、好評である。	見直しをしたが、あまり変化が見られず、今後も曜日や時間帯の検証をし、参加しやすい環境を整えていく。	図書館
			子どもの読書への動機づけとなるおはなし会、じゅうたんコーナーでの読み聞かせを子どもたちが参加しやすいように、中央図書館は日曜日、金剛図書館は土曜日へと曜日の見直しをした。		
	中・高校生サービスの充実	中・高校生の興味・関心に応えたコーナーを充実させます。	中・高校生のためのＹＡコーナー（ヤングアダルトコーナー）では、総合事務室・選挙管理委員会との連携により、市内にある高校や支援学校に18歳選挙権に関連した団体貸出をした。館内では、政治や憲法などについての関連本を展示し、関心を持つ機会とした。	興味・関心に応える図書の提供を図り、ＹＡ通信等の内容をさらに充実させて情報発信を継続する。	図書館
		高校(学校図書館など)への情報提供や連携に取り組みます。	市内の中学校、高校へ図書館作成のＹＡ通信を配布している。図書新聞作成に参考にしている高校もある。		
読書機会の充実	障がいのある子どもたちへの支援	障がいのある子どもたちのためのLLブック※33の収集に努め、LL版図書館利用案内を活用して市立図書館のPRを行い、利用に繋げていきます。各校の支援学級に団体貸出を実施します。	小・中学校の支援学級に、毎年度初めにＬＬ版利用案内を配付し、図書館利用の促進を図っている。	引き続きＬＬ版利用案内の配布により、図書館利用の促進を図るとともに、支援学級が団体貸出をより活用しやすくなるよう働きかける。	図書館
			支援学級では、担任が来館したり、学校図書館を通して団体貸出を利用している。		
	日本語を母語としない子どもたちへの応援	関連部署等とも連携して、日本語を母語としない子どもたちへ貸出しなどで応援します。	関連部署等との連携により貸出などで応援を継続している。	関連部署等との連携により、貸出や本に出会う機会づくりを図る必要がある。	関連部署・図書館

	事業名	内容	前計画期間の取り組みと成果	課題と方向性	担当
読書機会の充実	（新規）庁内各課との連携	庁内各課との連携で子どもの読書活動を推進します。	市・教育委員会主催の「とっぴーと読もう！読書感想文コンクール」に、展示、貸出で協力し、受賞者にお勧めの本を福袋として提供した。	庁内各課との連携による読書推進は、家庭や地域における子どもたちにとって、関連本についての読書の動機づけとなり、図書館への理解にも繋がるので、今後も積極的に連携を図っていく。	庁内各課・図書館
			高齢介護課主催の「感想文を書こう！ＭＥＥＴ★富田林コンクール」に、認知症等の関連本の収集・展示・貸出で協力した。		
			観光交流施設きらめきファクトリーの「帯とんコンテスト」に協力し、小中学生は市立図書館にある本での応募とし、受賞作の展示も行い、図書館の利用推進につなげた。		
			若者の育成拠点であるきらめき創造館で、図書館のリサイクル図書の本棚設置に協力し、中・高校生への本が身近にある環境づくりのために連携を開始した。	中・高校生の利用を把握し、リサイクル本の入れ替えや、図書館利用への促進をする。	
	（新規）学童クラブ配本便	学童クラブへの配本便(団体貸出)を充実させます。	平成28年2月より学童クラブ配本便を開始した。学童クラブに在籍する児童は増えており、児童の放課後の生活における読書活動を積極的に推進した。	年間3回の学童クラブ配本便は、増便の希望があり、必要とする本をすぐに利用できるように、回数増を図る必要がある。	庁内各課・図書館
学校図書館への援助	学校図書館配本便（ブック便）	学校への配本便（団体貸出）を充実させます。	学校及び学校図書館教育支援員との連携により、市立小・中学校の学校図書館への団体貸出を継続しており、希望の本等を配本し、返却本を回収している。	学校図書館への援助として、調べ学習等の図書の更新や必要な資料の充実と、ブック便の回数増を図る必要がある。	図書館・学校
			学校図書館への年間貸出冊数を200冊から500冊に拡大した。		
			円滑な運行をおこなうために、教育指導室が開催する学校図書館教育支援員会議に図書館職員が参加し、情報提供や意見交換をしている。	学校図書館教育支援員会議に積極的に参加し、情報共有によりブック便のさらなる充実を図る。また、ホームページ更新により役立つ情報提供に努める。	
			図書館のホームページに「学校支援のページ」を新設し情報提供している。		
	レファレンスへの対応	調べ学習などで必要になったレファレンスに対応したり、必要な資料を提供します。	調べ学習等で必要とする本は、学校図書館教育支援員がファックスやインターネットで申し込み、図書館ではテーマに沿った本を集め団体貸出で提供している。	学校で必要とされる資料を把握し、資料の収集、提供に努める。	図書館・学校
連携体制の強化	読書活動実務担当者との連携	学校図書館担当職員、保健センターの保健師などや、市民ボラティアと連携し、推進体制を強化します。 幼稚園・保育園・学童クラブ等への配本等の物流については、今後検討を行います。	学校における図書館担当者、保健センターの保健師、市民ボランティアとは、子ども読書活動推進連絡会を開催して研修や情報交換により連携を深めている。	子ども読書活動推進連絡会の開催を継続し、連携体制の強化を図る。	図書館・保健センター・教育指導室・その他
			教育指導室が開催する学校図書館教育支援員会議や学校図書館教育支援員研修会に図書館職員が参加し、情報提供や意見交換を通して学校図書館の現状把握に努めてきた。	学校図書館教育支援員の会議や研修会への参加により、学校図書館の現状把握と連携、情報提供に努める。	
			学童クラブへは、平成２５年度より庁内連絡便を利用した団体貸出、平成２８年度の２月からは、各学童クラブへの配本便による団体貸出を開始した。年度当初に開催される学童クラブ指導員会議（２か所）に図書館職員が出席し団体貸出の活用を促している。	学童クラブ指導員会議で、団体貸出の活用促進を図り、学童クラブ配本便の円滑な運行に努める。	

	事業名	内容	前計画期間の取り組みと成果	課題と方向性	担当
連携体制の強化	読書活動実務担当者との連携	学校図書館担当職員、保健センターの保健師などや、市民ボラティアと連携し、推進体制を強化します。 幼稚園・保育園・学童クラブ等への配本等の物流については、今後検討を行います。	あかちゃんのおはなし会では、年２回組み込んでいる保健師による子育てに関するお話が定着し、ブックスタート事業の継続により、さらに保健センターとの連携を強化している。	保健センターとブックスタート事業を継続し、あかちゃんのおはなし会や絵本リストの配布等さらに連携強化を図る。	図書館・保健センター・教育指導室・その他
			実務担当者が集まる子育て支援ブロック会議※34に働きかけて、図書館から子育て支援関係の活動や図書の情報等を提供する機会を持った。富田林市の子どもの状況等の情報共有をおこない、子どもの読書環境の推進に努めている。	子育て支援ブロック会議に働きかけて、子育て支援関連図書の情報を提供し、富田林市の子どもの情報の共有により子どもの読書活動の推進を図る。	
人材の育成　啓発	職員の研修	児童サービスに関する研修を実施し、資質の向上に努めます。	大阪府立図書館等が開催する研修に積極的に参加し、児童サービスについての能力や資質の向上に努めている。	児童サービスに関する研修機会を有効に活用し、資質の向上に努める。	図書館
	読書に関する講座やボランティア養成	子どもの読書についての講座や、読み聞かせのボランティア養成講座などを開催します。	大阪府の子育て支援交付金を活用し子どもの読書活動推進のための講座を継続して実施している。子どもの発達がテーマの講座への参加が多く、関心がうかがえた。	子ども読書活動に関わる人材育成講座を継続して実施し、協働ボランティアの確保、質の向上に努める。	図書館
読書活動の啓発	出前講座や読書情報の発信	図書館からの出前講座なども利用して、子どもの本に関する情報や、資料を提供し、子どもの読書に関する関心と理解を深められるよう努めます。	図書館出前講座は、保育園・幼稚園・児童館・子育てサロン・幼児教育センター・お産センター・学童クラブ等からの依頼によりさまざまな場で開催した。	図書館出前講座を活用することで、絵本の読み聞かせの啓発、子どもの本に関する情報提供等により、子ども読書活動の推進を図る。	図書館
	（新規）子ども向け講座等	子ども向け講座の開催により図書館利用の動機付けを図ります。	図書館職員と富田林子ども文庫連絡会のメンバー、ボランティア研修を受講した市民により、幼児から小学生向けにリサイクル工作を実施した。	子ども向け講座の参加により図書館を身近に感じ、図書館利用の動機づけと利用促進を図る。	図書館・その他
	（新規）読書通帳の配布	読書通帳の活用により児童・生徒が読書に親しみ、図書館利用の促進となるよう努めます。	平成28年度から学校との連携により、市内全小・中学生に読書通帳を配布した。	読書通帳は、小学生においては活発に利用されているが、中学生は利用の継続がなく、学校と協力しながら利用の促進を図る必要がある。	学校・図書館・その他

※33　LL ブック：知的障がい、学習障がいなど通常の活字図書の利用が困難な人にも理解できるように、図や写真を多様するなどの工夫をして書かれた本。

※34　ブロック会議：子育てに関わるいろいろな機関がネットワークをつくり、中学校区ごとの４ブロックで活動をしています。いろいろな施設がつながり子育て家庭の架け橋になれるように、子育てに関する取り組みや気軽に集える場の提供をしています。

金剛図書館　帯とんコンテスト展示

6. 前計画期間の数値目標の検証

	内容		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H28 目標	達成率 %
学校	学校図書館図書標準に対する達成度	小学	92.6%	97.4%	101.5%	103.8%	106.9%	107.1%	100%	107.1
		中学	76.5%	81.1%	84.3%	86.8%	88.0%	90.6%	100%	90.6
	読書が好き（小6）		45.5%	46.0%	46.4%	48.9%	45.9%	44.5%	50.0%	89.0
図書館	ブック便貸出増		6,525 冊	5,897 冊	6,513 冊	9,274 冊	8,560 冊	7,536 冊	9,000 冊	83.7
	あかちゃんのおはなし会等参加者数増		539 人	753 人	804 人	747 人	758 人	699 人	800 人	87.3
児童館	絵本を楽しむ会参加者増		108 人	94 人	178 人	117 人	146 人	152 人	150 人	101.3
学童クラブ	団体貸出冊数増		1,780 冊	2,180 冊	2,107 冊	2,248 冊	2,218 冊	2,225 冊	2,500 冊	89.0
保育園幼稚園	図書館訪問、団体貸出回数増		77 回	76 回	79 回	82 回	80 回	86 回	100 回	86.0
保健センター	保護者への読書に関する情報提供増		1,618 人	1,526 人	3,108 人	3,086 人	3,029 人	3,052 人	2,400 人	127.2
図書館等	読書に関する研修・講座など		9 回	8 回	17 回	14 回	21 回	18 回	20 回	90.0

学校図書館図書標準：:公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準冊数

《学校》

〇学校図書館図書標準に対する達成度：小学校は目標を達成し、中学校は増加傾向ですが達成できませんでした。この数値は市の平均値であるため、小学校の中には、100%に達していない学校もあります。引き続き、中学校も含め、全ての学校が 100%に達成できるよう、さらなる蔵書の充実が必要です。

○読書が好き（小６）：目標の 50%には届きませんでした。アンケート調査からもうかがえたように、学年が上がるにつれ読書が好きではなくなる傾向がうかがえ、本離れ、読書離れが始まる高学年の子どもたちへの働きかけを工夫することにより、読書好きの子どもを増やすことが必要です。

《図書館》

○ブック便貸出増：平成 26（2014）年度は飛躍的にのびました。朝の読書に使用するための本を継続して要望された学校図書館があり、図書館は要望に対し、毎回多数の本を貸出したことが大きな要因です。平成 25（2013）年度、26（2014）年度は、富田林南ロータリークラブからの寄贈もあり絵本や物語の本の購入ができたので、これらの蔵書も貸出につながりました。今年度からブック便の１回の貸出冊数も 300 冊から 500 冊に増やしました。今後は、ブック便巡回数増により利便性を高め、貸出数の増加を目指します。この数値には図書館に来館しての貸出分も含むため、本計画では学校図書館貸出数増（ブック便含む）に変更します。

○あかちゃんのおはなし会等参加者増：数値目標設定にはあかちゃんのおはなし会が金剛図書館のみで実施されていたことから、おはなし会、じゅうたんコーナーのよみきかせも金剛図書館のみでの合計数となっています。
本計画では、中央図書館も含めた参加者数で新たに目標数値を設定します。

あかちゃんのおはなし会

《児童館》

○絵本を楽しむ会参加者増：毎年参加者も増え目標達成となりました。絵本の読み聞かせ以外に小学生育成事業での読書タイムを実施しており、毎回 70 人の参加者があり図書館からのリサイクル図書の利用により子どもたちが本を読む力をつけるよう積極的な活動をしています。
本計画では、子ども読書活動に関わるおはなし会等の参加者数も含めて、児童活動での読書活動の参加人数として新たに設定します。

児童館への図書館出前講座

《学童クラブ》

〇団体貸出冊数増：庁内連絡便での配本を開始したが、目標達成には至りませんでした。平成28（2016）年度より開始の学童クラブ配本便により今後の増加を目指します。

《保育園・幼稚園》

〇図書館訪問・団体貸出回数増：数値目標を達成できませんでしたが、幼稚園では図書館訪問で、本棚から自由に読みたい本を借りる機会を増やしています。保育園は、図書館に出かける時間を確保するのが難しくなっており、園内の活動の中で、年齢に合わせた読み聞かせの機会を増やしています。庁内連絡便の活用を促し、さらに配本便の検討が求められています。

　この数値は、図書館へ訪問時の貸出回数で出していましたので、本計画では、図書館訪問の実態を知るために、クラス単位での来館回数を図書館訪問回数増、実際に貸出した数を団体貸出数増を、新たな数値目標として設定します。

図書館訪問時の保育園児の本選び

《保健センター》

〇保護者への読書に関する情報提供増：年齢別、またプレ☆ママパパ教室に向けてのリーフレット作成によるきめ細かな取り組みにより目標を大幅に達成することができました。

《図書館等》

〇読書に関する研修・講座など：子育て支援と子ども読書活動に関する講座、研修、及び図書館出前講座の開催数です。交付金等を積極的に活用した講座等の継続をし、図書館出前講座を市内の子育て支援の場に周知する必要があります。

第４章．第２次子ども読書活動推進計画の推進のために

１．推進体制の整備

前計画策定後、庁内で作る子ども読書活動推進会議を設置し関係各課の情報や事業調整、数値目標の確認を行い、子ども読書活動推進計画の効果的な推進を図ってきました。今後も会議の開催により、関係各課との連携・協力の下、数値目標の達成に努め、子ども読書活動のさらなる推進を図ります。

実務担当者が集まる子育て支援ブロック会議にさらに働きかけ、情報共有、連携、研修などをおこないます。

本計画に掲げられた取り組みを実施し、市は必要な財政上の措置を講ずるよう努めます。

２．人材の育成・研修、協力体制

前計画策定後、子どもの読書にかかわる人材の育成と研修を実施するために子ども読書活動推進連絡会を立ち上げ、関係機関の子どもの読書活動を推進する実務担当者と市民団体との交流の場を持つことで、連携を強化し、協力体制を整えてきました。また、子どもの読書活動や子どもの発達についての講演会を行い研修をしています。この講演会は公開講座として開催し、一般の方にも読書啓発の機会としています。今後も子ども読書活動推進連絡会を継続して開催し、協力体制を強化していきます。

３．啓発・広報

広報、ホームページ、子どもインフォメーションなどを活用して、子どもの読書に関する情報を継続して提供します。

４．第２次計画における数値目標

前計画の検証を踏まえ、第2次計画において、新たな数値目標を設定しました。

目標値については、進捗状況に合わせて、適宜見直します。

	内容	2017年度 見込み	2022年度
学校	学校図書館図書標準達成校	（小学） 12校/16校	（小学） 16校/16校
		（中学） 2校/8校	（中学） 8校/8校
	読書が好き（小6）増	46.4% (アンケート結果)	50.0%
図書館	学校図書館団体貸出数増（ブック便含む）	7,080冊	9,000冊
	おはなし会・よみきかせ参加者増	1,130人	1,300人
児童館	児童館活動での読書活動の参加人数	6,132人	6,400人
学童クラブ	団体貸出冊数増（学童クラブ配本便含む）	3,830冊	5,000冊
保育園・幼稚園	図書館訪問回数	34回	50回
	団体貸出数増	1,466冊	1,800冊
保健センター	保護者への読書に関する情報提供増	2,966人	3,100人
図書館等	読書に関する研修・講演会・出前講座など	18回	20回

学校図書館図書標準：公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準冊数

資　料

富田林市の子ども読書活動推進に関する現状の調査の実施について

調査目的

平成２５年３月末「富田林市子ども読書活動推進計画」策定時に実施した調査を、この度「第２次富田林市子ども読書活動推進計画」を策定するにあたり改めて実施し子どもの読書環境や読書の状況の変化を分析し、更なる計画の推進に参考とすることを目的といたします。

A．富田林市の子ども読書活動推進に関する現状の調査の実施について

対象施設

市内全市立小学校	１６校	私立小学校	１校
市立中学校	８校	私立中学校	２校
公立高等学校	３校	私立高等学校	２校
市立幼稚園	１０園	私立幼稚園	６園
市立保育園	６園	私立保育園	９園
学童クラブ	２４クラブ	児童館	１施設

（市内私立園・小・中学・高校も含む）

調査日時　平成２９年７月末日まで

B．富田林市の子どもの読書に関するアンケートの実施について

対象児童・生徒　市内全小学３年生・６年生・中学３年生

（市内私立小・中学校も含む）

調査日時　平成２９年７月６日～20 日

C．富田林市の子どもの読書に関するアンケートの実施について

対象　４か月児健診受診保護者（市立保健センター）

調査日時　平成２９年８月 25 日、９月８日、９月 29 日（計３回）

第2次子ども読書活動推進計画にかかる調査（保育園）

平成28年度実績調査（平成27年度でも可）　保育園　回答数15園（市立6園　私立9園）

【年齢（学年別）の園児数】

保育園	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
合計	115	302	341	349	361	339	1,807
平均	8	20	23	23	26	24	120

1．園で所蔵されている冊数及び年間購入冊数

所蔵冊数

所蔵冊数	保育園数
ア．1～500 冊	6
イ．～1,000 冊	7
ウ．～2,000 冊	1
エ．～3,000 冊	0
オ．3,001 冊以上	1
合計	15

購入冊数

購入冊数	保育園数
ア．0冊	1
イ．1～50 冊	10
ウ．～100 冊	1
エ．101 冊以上	1
無回答	2
合計	15

2．市立図書館の団体貸出の利用

ア．利用あり⇒（A）	7
イ．利用なし⇒（B）	8
合計	15

（A）利用の際の使いにくい点や改善してほしい点

- 職員は時々利用しているが、子どもたちはなかなか利用は難しい。行って貸出してもらう経験ができればと思う。【1園】
- 絵本を借りたときに、中のページが破れているときがある。仕方ない事とは思うが、大事に使えると良いなと思う。【1園】
- 配達サービスなどがあれば助かる。【1園】

（B）利用していない理由

ア．団体貸出を知らない	0
イ．図書館が遠い	3
ウ．行く機会（余裕）がな	4
エ．※その他	1

※その他　・中央・金剛とも絵本が少ない

３．先生によるよみきかせの頻度・時間帯

頻度

ア．１日１～２回	２
イ．１日３～４回	10
ウ．１日５回以上	３
エ．その他	０
合計	15

時間帯

ア．前９時まで	７
イ．午前９時～昼食前	11
ウ．昼食後～おやつ前	13
エ．おやつ後～	９
オ．その他	６

４．よみきかせ以外での本の活用方法　（複数回答可）

ア．子どもや保護者に貸出	５
イ．工作や絵画活動、絵画製作に活用	７
ウ．ごっこ遊び、表現遊び、劇遊びに活用	11
エ．観察や飼育、栽培などに活用	12
オ．地震や災害などの本を避難訓練に活用	12
カ．子どもが自由に見て楽しむ	15
キ．参観日、季節の行事に活用	10
ク．園庭開放で地域の親子に貸出	10
ケ．※その他	１

※その他　・毎月テーマを決めて掲示：雨の絵本、おばけの絵本など

５．保護者やボランティアによるよみきかせやおはなし会の実施

ア・ある　4園⇒Aへ　　イ・ない　11園⇒質問６へ

A．保護者やボランティアによるよみきかせやおはなし会の実施状況（複数回答可）

読み手

ア．富田林おはなしの会	２
イ．ボランティア（保護者）	０
ウ．ボランティア（保護者以外）	２
エ．その他	１

時間帯

ア．午前中	３
イ．午後	１
ウ．その他	０

頻度

ア．月１～２回	０
イ．年間６回	１
ウ．年間３回（学期に１回）	０
エ．年間２回	１
オ．年間１回	２
カ．その他	０

６．子どもの読書に関する行事等の開催について　（複数回答可）

ア．園児や保護者に本の貸出	５
イ．誕生会や季節行事でのよみきかせ	11
ウ．園庭開放での子育て講座、出前講座	13
エ．園庭開放での本の貸出	８
オ．その他	０

７．子どもの読書活動推進のため市立図書館に望むこと

・こども図書館と子育て支援施設が一体となった施設があればいいと思う。親子で本を楽しんだり、子育てに関する相談や保護者同士が交流・情報交換ができる場所等が必要。【1園】

・よみきかせができる方を派遣していただきたい。【1園】

・園児を連れて行くのはなかなか人数等により困難。来ていただいてよみきかせやおはなし会をしてもらえるとありがたい。【1園】

８．子どもの読書環境をよくするために取り組みたいこと　（複数回答可）

ア．本棚を設置し園児が絵本と触れ合える環境を整える	７
イ．園内の図書を充実させる	10
ウ．保護者に絵本のよみきかせの大切さについて啓発する	10
エ．園児や保護者への本の貸出	４
オ．園児に絵本のよみきかせの機会をふやす	８
カ．※その他	３

※その他　・H29から団体貸出を利用したい

・園児が絵本と自由に触れ合える環境はあるが、保護者とともに絵本に触れ、絵本をおもちゃにするのではなく、親子で絵本の楽しさ、心地よさに触れてほしいと思う。親に伝えるとともに場を整える。

・移動図書館の利用

第2次子ども読書活動推進計画にかかる調査（幼稚園）

平成28年度実績調査（平成27年度でも可）　幼稚園　回答数14園（市立10園　私立6園）

【年齢（学年別）の園児数】

幼稚園	３歳児	４歳児	５歳児	計
合計	194	370	424	988
平均	14	26	30	71

１．園で所蔵されている冊数及び年間購入冊数

所蔵冊数

所蔵冊数	幼稚園数
ア．1～500 冊	2
イ．～1,000 冊	5
ウ．～2,000 冊	5
エ．～3,000 冊	2
オ．3,001 冊以上	0
合計	14

購入冊数

購入冊数	幼稚園数
ア．0 冊	1
イ．1～50 冊	12
ウ．～100 冊	0
エ．101 冊以上	1
合計	14

２．市立図書館の団体貸出の利用

ア．利用あり⇒（A）	10
イ．利用なし⇒（B）	4
合計	14

（A）利用の際の使いにくい点や改善してほしい点

・こどもたちが選びやすいように、絵本の表紙が見やすい本棚を増やしてほしい。【1 園】

・開館前に入れてゆっくり貸し出しできるので利用しやすい。【3 園】

・大型絵本などのよみきかせもこどもたちにとって良い経験になっている。【2 園】

（B）利用していない理由

ア．団体貸出を知らない	0
イ．図書館が遠い	3
ウ．行く機会（余裕）がない	3
エ．※その他	1

※その他　　・園に本がたくさんあるから

3. 先生によるよみきかせの頻度・時間帯

頻度

ア．１日１～２回	14
イ．１日３～４回	0
ウ．１日５回以上	0
エ．その他	0
合計	14

時間帯

ア．登園～昼食前	4
イ．昼食後	3
ウ．降園前	13
エ．その他	3

4. よみきかせ以外での本の活用方法 （複数回答可）

ア．子どもや保護者に貸出	11
イ．工作や絵画活動、絵画製作に活用	13
ウ．ごっこ遊び、表現遊び、劇遊びに活用	14
エ．観察や飼育、栽培などに活用	14
オ．地震や災害などの本を避難訓練に活用	12
カ．子どもが自由に見て楽しむ	14
キ．参観日、季節の行事に活用	12
ク．教師の教材研究、指導	12
ケ．その他	0

5. 保護者やボランティアによるよみきかせやおはなし会の実施

ア・ある　11園⇒Aへ　　イ・ない　3園⇒質問６へ

A. 保護者やボランティアによるよみきかせやおはなし会の実施状況（複数回答可）

読み手

ア．富田林おはなしの会	10
イ．ボランティア（保護者）	4
ウ．ボランティア（保護者以外）	3
エ．※その他	2

※その他　・教育実習生　・大学生

時間帯

ア．午前中	5
イ．午後	7
ウ．その他	0

頻度

ア．月1～2回	3
イ．年間6回	1
ウ．年間3回（学期に1回）	7
エ．年間2回	0
オ．年間1回	0
カ．※その他	2

※その他　・保護者ボランティアは週１回

・不定期

6．子どもの読書に関する行事等の開催について　（複数回答可）

ア．園児や保護者に本の貸出	13
イ．誕生会や季節行事でのよみきかせ	14
ウ．保護者向けの子育て講座などの実施	5
エ．長期休業中の本の貸出	9
オ．※その他	1

※その他　・学力向上プロジェクトの一環として、家庭学習ウィーク（平成28年度・年間3回）にあわせ、園児は絵本よみきかせ週間として、毎日家庭で絵本をよんでもらい、カードに記録してもらうことにした。

7．子どもの読書活動推進のため市立図書館に望むこと（複数回答可）

・子どもが本に触れる大切さはもちろんですが、保護者との本の時間を大切にする啓発や、おすすめの本を市民全体にわかりやすく知らせていただく機会を。【1 園】

・レインボーホールの喜志分室がなくなったので利用しにくくなった。【1 園】

・距離があるため図書館を頻繁に利用できない。たくさんの絵本、いろんなジャンルの絵本に幼少期から出会わせたいので、移動図書館を利用したい。【1 園】

・大型の絵本、紙芝居、しかけ絵本などがたくさんあるとありがたい。【1 園】

8．子どもの読書環境をよくするために取り組みたいこと　（複数回答可）

ア．本棚を設置して園児が絵本と触れ合える環境を整える	4
イ．園内の図書を充実させる	10
ウ．保護者に絵本のよみきかせの大切さについて啓発する	12
エ．園児や保護者への本の貸出	6
オ．園児に絵本のよみきかせの機会をふやす	5
カ．その他	0

第2次子ども読書活動推進計画にかかる調査（小学校）

平成28年度実績調査（平成27年度でも可）

小学校　回答数17校（市立16校　私立1校）

【学年別の児童数】

小学校	１年	２年	３年	４年	５年	６年	計
計	882	854	828	911	894	971	5,340
１７校平均	52	50	49	54	53	57	314

【所蔵冊数】

1～6,000 冊	1
～8,000 冊	2
～10,000 冊	6
～15,000 冊	8
合計	17

【購入冊数】

1～200 冊	8
～300 冊	7
～400 冊	1
～500 冊	1
合計	17

１．授業時間以外で学校図書館について該当するもの（複数回答可）

開館日数

ア．週5日	11
イ．週4日	1
ウ．週3日	5
エ．週2日	0
オ．週1日	0
カ．その他	0

時間帯

ア．全日開館	4
イ．朝・始業時間前	3
ウ．授業間の休み時間	8
エ．昼休み	12
オ．放課後	0
カ．その他	2

２．授業中の学校図書館の利用状況（複数回答可）

教科

ア．国語	13
イ．理科	9
ウ．社会	11
エ．算数	1
オ．英語	2
カ．図画工作	3
キ．家庭	3
ク．体育	1
ケ．生活	10
コ．音楽	0
サ．図書の時間	14
シ．すべての教科	3
ス．※その他	4

※その他　・総合的な学習や特別活動

頻度

ア．毎日	5
イ．週2～3回程度	1
ウ．週1回	8
エ．隔週程度	3
オ．学期に数回程度	2
カ．学期に1回	0
キ．その他	0

活用内容

ア．学校図書館に移動して授業をする	16
イ．教室で学校図書館の本を利用する	14
ウ．学校図書館教育支援員（図書館担当職員）によみきかせや本の紹介をしてもらう	14
エ．その他	0

３．「朝の読書」など一斉読書の時間を設けているか

ア・設けている　17校⇒Aへ　　イ・設けていない　0校

A．「朝の読書」等の実施状況について（複数回答可）

頻度

ア．毎朝	2
イ．週4回	1
ウ．週3回	1
エ．週2回	5
オ．週1回	8

本の準備

ア．自宅から持参	14
イ．学級文庫の本	17
ウ．学校図書館の本	16
エ．公共図書館の本	11
オ．その他	0

効果

ア．読書習慣の定着	17
イ．読書が好きになる	17
ウ．読書量の増加	16
エ．１時限目の授業の開始に効果がある	11
オ．その他	0

４．子どもの読書活動に関連して市民ボランティア（保護者を含む）の活用があるか

ア・ある　　16校⇒Aへ　　イ・ない　　１校⇒質問５へ

Ａ．市民ボランティアによるよみきかせやおはなし会の実施状況について（複数回答可）

読み手

ア．富田林おはなしの会	13
イ．ボランティア（保護者）	7
ウ．ボランティア（保護者以外）	4
エ．その他	0

頻度

ア．週1回	1
イ．月1回	5
ウ．学期に1回	10
エ．年数回	2
オ．※その他	2

※その他　・月２回　　・隔週

時間帯

ア．朝の読書	7
イ．授業時間	11
ウ．昼休み	1
エ．放課後	0

５．上記以外で子どもの読書に関する取り組み（複数回答可）

ア．読書通帳の活用	16
イ．「帯とん」コンテスト～あなたが作った帯で本をおすすめしよう～に参加	8
ウ．”とっぴー”と読もう！富田林市読書感想文コンクールに参加	16
エ．感想文を書こう！ＭＥＥＴ★富田林コンクールに参加	8
オ．※その他	2

※その他　　・図書館出前講座　　・夏休み、冬休みに読書感想文を宿題にする

６．子どもの読書活動のために市立図書館に望むこと

・ブック便の回数を増やしてほしい。【2 校】

・漏水のため書籍 300 冊以上が使用不可となりました。書籍を寄付してくれるところはありますか。【1 校】

・図書館見学や出前授業を今後も行って生きたいと思いますので、ご協力よろしくお願いいたします。【1 校】

・図書費が少なく調べ学習の資料を公共に頼るのが現状です。学校図書館の充実のために利用できる冊数を増やしていただけるとありがたいです。【1 校】

・ここ数年、学校図書館教育支援員さんを中心に市立図書館と学校との連携が大変進んでいて本当に感謝しています。これからもさらに連携できるようどうぞよろしくお願いします。【1 校】

７．子どもの読書環境をよくするために取り組みたいこと（複数回答可）

ア．蔵書の更新・充実	17
イ．学校図書館の読書環境の改善・充実	15
ウ．学校図書館の年間指導計画の策定	5
エ．図書時間の充実	9
オ．本の読み聞かせや本の紹介等の充実	10
カ．※その他	1

※その他　　・H29 より毎朝の開館を行っている

第２次子ども読書活動推進計画にかかる調査（中学校）

平成28年度実績調査（平成27年度でも可）

中学校　回答数10校（市立8校　私立2校）

【学年別の生徒数】

中学校	１年	２年	３年	計
計	993	1,035	1,195	3,223
10 校平均	99	104	120	322

【所蔵冊数】

1～7,000 冊	0
～9,000 冊	2
～11,000 冊	3
～13,000 冊	2
～15,000 冊	1
30,000 冊以上	2
合計	10

【購入冊数】

1～300 冊	5
～400 冊	4
～500 冊	1
～600 冊	0
合計	10

１．授業時間以外で学校図書館について該当するもの（複数回答可）

開館日数

ア．週5日	7
イ．週4日	0
ウ．週3日	3
エ．週2日	0
オ．週1日	0

時間帯

ア．全日開館	1
イ．朝・始業時間前	0
ウ．授業間の休み時間	3
エ．昼休み	9
オ．放課後	3
カ．その他	0

２．授業中の学校図書館の利用状況（複数回答可）

教科

ア．国語	９
イ．理科	３
ウ．社会	３
エ．数学	０
オ．英語	１
カ．美術	１
キ．技術・家庭	０
ク．書道	０
ケ．保健体育	０
コ．音楽	０
サ．図書の時間	０
シ．すべての教科	１
ス．※その他	３

※その他　・支援学級の生徒授業1　・総合2

頻度

ア．毎日	０
イ．週２～３回程度	０
ウ．週１回	１
エ．隔週程度	１
オ．学期に数回程度	８
カ．学期に１回	０
キ．その他	１

活用内容

ア．学校図書館に移動して授業をする	９
イ．教室で学校図書館の本を利用する	６
ウ．学校図書館教育支援員（図書館担当職員）によみきかせや本の紹介をしてもらう	１
エ．その他	０

３．「朝の読書」など一斉読書の時間を設けているか

ア・設けている　９校⇒Ａへ　　イ・設けていない　１校

Ａ．「朝の読書」等の実施状況について（複数回答可）

頻度

ア．毎朝	８
イ．週４回	０
ウ．週３回	０
エ．週２回	１
オ．週１回	０

本の準備

ア．自宅から持参	９
イ．学級文庫の本	３
ウ．学校図書館の本	７
エ．公共図書館の本	１
オ．その他	０

効果

ア．読書習慣の定着	８
イ．読書が好きになる	３
ウ．読書量の増加	８
エ．１時限目の授業の開始に効果	６
オ．その他	０

４．子どもの読書活動に関連して市民ボランティア（保護者を含む）の活用があるか

ア・ある　　１校⇒Ａへ　　イ・ない　　９校⇒質問５へ

Ａ．市民ボランティアによるよみきかせやおはなし会の実施状況について（複数回答可）

読み手

ア．富田林おはなしの会	1
イ．ボランティア（保護者）	0
ウ．ボランティア（保護者以外）	0
エ．その他	0

頻度

ア．週１回	0
イ．月１回	0
ウ．学期に１回	1
エ．年数回	0
オ．その他	0

時間帯

ア．朝の読書	0
イ．授業時間	1
ウ．昼休み	0
エ．放課後	0

５．上記以外で子どもの読書に関する取り組み

ア．読書通帳の活用	4
イ．「帯とん」コンテスト～あなたが作った帯で本をおすすめしよう～に参加	2
ウ．”とっぴー”と読もう！富田林市読書感想文コンクールに参加	7
エ．感想文を書こう！ＭＥＥＴ★富田林コンクールに参加	2
オ．　※その他	1

※その他　・ビブリオバトル

６．子どもの読書活動推進のために市立図書館に望むこと

・教職員が働いている時間帯でも、研修のために市立図書館の本を借りられるシステム。【1 校】

７．子どもの読書環境をよくするために取り組みたいこと（複数回答可）

ア．蔵書の更新・充実	9
イ．学校図書館の読書環境の改善・充実	7
ウ．学校図書館の年間指導計画の策定	1
エ．図書時間の充実	4
オ．本の読み聞かせや本の紹介等の充実	5
カ．その他	0

第2次子ども読書活動推進計画にかかる調査（高校）

平成28年度実績調査（平成27年度でも可）　高校　回答数5校（公立3校　私立2校）

【学年別の生徒数】

高等学校	１年	２年	３年	計
計	1,313	1,331	1,366	4,010
５校平均	263	266	273	802

【所蔵冊数】

1～10,000 冊	1
～20,000 冊	2
～30,000 冊	1
～40000 冊	1
合計	5

【購入冊数】

1～300 冊	4
～400 冊	1
～500 冊	0
合計	5

１．授業時間以外で学校図書館について該当するもの

開館日数

ア．週5日	5
イ．週4日	0
ウ．週3日	0
エ．週2日	0
オ．週1日	0

時間帯

ア．全日開館	0
イ．朝・始業時間前	0
ウ．授業間の休み時間	1
エ．昼休み	5
オ．放課後	4
カ．※その他	1

※その他　担当者が在室できる時間

２．授業中の学校図書館の利用状況（複数回答可）

教科

ア．国語	2	ケ．保健体育	0
イ．理科	0	コ．音楽	0
ウ．社会	2	サ．図書の時	0
エ．数学	0	シ．すべての	0
オ．英語	1	ス．※その他	2
カ．美術	1		
キ．技術・家庭	0		
ク．書道	0		

※その他　・総合的な学習の時間

・共生推進教室の生徒の授業

頻度

ア．毎日	0
イ．週2～3回程度	0
ウ．週1回	2
エ．隔週程度	0
オ．学期に数回程度	1
カ．学期に1回	0
キ．その他	1

活用内容

ア．学校図書館に移動して授業をする	4
イ．教室で学校図書館の本を利用する	1
ウ．学校図書館担当者に本の紹介をしてもらう	0
エ．その他	0

3．「朝の読書」など一斉読書の時間を設けているか

ア・設けている　0校　　イ・設けていない　5校

4．子どもの読書活動に関連してボランティア（保護者を含む）の活用があるか

ア・ある　　0校　　イ・ない　　5校⇒質問5へ

5．上記以外で子どもの読書に関する取り組み（複数回答可）

ア．新入生オリエンテーション	5
イ．読書甲子園に参加	1
ウ．秋の読書週間	1
エ．夏休み特別貸出	2
オ．「帯とん」コンテスト～あなたが作った帯で本をおすすめしよう～に参加	0
カ．青少年読書感想文全国コンクールに参加	1
キ．※その他	1

※その他

・ビブリオバトル

6．子どもの読書活動推進のために市立図書館に望むこと

・YA 通信を送っていただけるのは助かります。図書新聞を作る参考にさせていただいたり、興味深い記事に驚いています。【1 校】

7．子どもの読書環境をよくするために取り組みたいこと（複数回答可）

ア．蔵書の更新・充実	5
イ．学校図書館の読書環境の改善・充実	4
ウ．学校図書館の年間指導計画の策定	0
エ．図書時間の充実	2
オ．本の読み聞かせや本の紹介等の充実	0
カ．※その他	1

※その他

・やりたいことが多く、図書館を充実させたいのです。しかし、現状では時間がありません。学校図書館の生徒利用を充実させていきますので、又、どうかよろしくお願いいたします。

第2次子ども読書活動推進計画にかかる調査（学童クラブ）

平成28年度実績調査（平成27年度でも可）

学童クラブ　　回答数　24クラブ　在籍数　1,028人　平均在籍数　43人

１．所蔵されている冊数及び年間購入冊数

所蔵冊数

所蔵冊数	学童クラブ数
ア．1～100 冊	3
イ．～200 冊	12
ウ．～300 冊	4
エ．～400 冊	3
オ．～500 冊	1
カ．501 冊以上	1
合計	24

購入冊数

購入冊数	学童クラブ数
ア．0 冊	4
イ．1～10 冊	5
ウ．～20 冊	5
エ．～30 冊	3
オ．～40 冊	1
カ．～50 冊	1
キ．51 冊以上	1
無回答	4
合計	24

２．市立図書館の団体貸出の利用

ア．利用あり⇒（A）	20
イ．利用なし⇒（B）	4
合計	24

（A）利用の際の使いにくい点や改善してほしい点

・かみしばいを新しいものにし、内容も数も増やしてほしい。【４クラブ】

・配本便の場合、借りたい本が選べない。【２クラブ】

・４か月は長すぎる。２か月に１度など、交換ペースを増やしてほしい。【３クラブ】

・利用期間中に予約が入って返却を迫られるのは困る。【1 クラブ】

・ページが外れていたり、破れている本を補修した。【１クラブ】

（B）利用していない理由

・建て替えが予定されてはいるが、今の建物では狭すぎてこれ以上物を置くところがないから。【１クラブ】

・学校図書館を利用している児童が多いため。【１クラブ】

３．先生によるよみきかせ

ア・している　　10 クラブ⇒Aへ	イ・していない　　14 クラブ⇒Bへ

A．先生によるよみきかせの頻度

ア．毎日	0
イ．週3～4回	1
ウ．月2～3回	2
エ．長期休み期間	3
オ．その他	4

B．していない理由

・時間がないから。【１クラブ】

・児童が自由に読むから。【１クラブ】

・こどもたちが個々に読書をしたり、かみしばいも自主的にやりたがるから。【4クラブ】

・本が好きな子が多く、おやつの後など読書の時間があり静かに読むことができるから。【１クラブ】

・児童の下校が遅く、バスの帰りの送りなどがあり時間がないから。【１クラブ】

・人数が多いため。【2クラブ】

・班で当番を決めていて、担当になった班の子どもたちが読むため。【１クラブ】

・興味のある本を持ってきてもらっているので、かみしばいより本に興味があるから。【１クラブ】

４．よみきかせ以外での本の活用方法　（複数回答可）

ア．子どもが自由に見て楽しむ	22
イ．工作や折り紙、あやとり、絵画活動などの教本に活用	21
ウ．ごっこ遊び、表現遊びなど遊びに活用	4
エ．観察や飼育、栽培などに活用	8
オ．その他	0

5．保護者やボランティアによるよみきかせやおはなし会の実施

ア・ある　7クラブ⇒Aへ	イ・ない　17クラブ⇒質問6へ

Ａ．保護者やボランティアによるよみきかせやおはなし会の実施状況（複数回答可）

読み手

ア．富田林おはなしの会	1
イ．ボランティア（保護者）	0
ウ．ボランティア（保護者以外）	6
エ．※その他	1

頻度

ア．年に１回	0
イ．年に２回	2
ウ．年に３回（学期に１回）	0
エ．その他	5

※その他　大阪大谷大学の学生サークル

6．子どもの読書活動推進のため市立図書館に望むこと

・なかなか図書館にいくことのできない子どもたちも多いと思うので、移動図書館が学校にきてほしい。【１クラブ】

・活字離れ防止のため、マンガ等を置いてほしい。【１クラブ】

・児童数が多く、図書館に行けないのできてほしい。【１クラブ】

・図書館から出張していただいて、よみきかせやおはなし会をしてほしい。【５クラブ】

・小学生向けの行事をしてほしい。【１クラブ】

・長期休みなどに図書館でおはなし会（平日）を実施してほしい。【１クラブ】

・図書を利用する児童が多いので、本の数を増やしてほしい。【１クラブ】

・定期的に回数を増やしてほしい。【１クラブ】

・以前のように各学校を回って、借りる機会を作ってほしい。【１クラブ】

・かみしばいの種類を増やしてほしい。【１クラブ】

・おはなし会や落語、腹話術、人形劇など、長期休みのときに学童にきて子どもたちを楽しませてくれる団体を紹介してほしい。【１クラブ】

・おはなし会をしてほしい。【１クラブ】

・このように配本していただき、学童も楽しく本読みができて助かっている。【１クラブ】

7．子どもの読書環境をよくするために取り組みたいこと（複数回答可）

ア．本棚を設置して児童が図書と触れ合える環境を整える	7
イ．学童クラブ内の図書を充実させる	16
ウ．児童に絵本のよみきかせの機会を増やす	12
エ．※その他	1
オ．無回答	3

※その他　本をもっと手に取りやすい環境にしたい

子ども読書アンケート　　小学校１７校【小３：784 名・小６：931 名】　中学校 10 校【中３：1,119 名】　総計 2,834 名　回収率 94.7%

			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
1	あなたは小さい頃、絵本や本を読んでもらいましたか。		よく読んでもらった	時々読んでもらった	たまに読んでもらった	読んでもらったことはない	わからない、おぼえていない	無回答		
		小3	410	158	121	26	80	3		
		小6	465	233	122	9	106	0		
		中3	476	282	186	15	158	2		
2	それは、だれに読んでもらいましたか。（いくつでも）		おとうさんやおかあさん、きょうだいに	おじいさんやおばあさんに	幼稚園、保育園で先生に	地域の図書館でおとなの人に	児童館や地域の施設などでおとなの人に	わからない、おぼえていない	無回答	
		小3	547	210	458	56	30	73	6	
		小6	697	261	513	69	30	115	1	
		中3	749	187	541	54	43	187	5	
3	読書が好きですか。		好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば好きではない	好きではない	無回答			
		小3	520	207	38	27	4			
		小6	433	320	133	42	5			
		中3	369	388	218	139	5			
4	この6月中で何冊ぐらい本を読みましたか。（教科書・マンガ・雑誌以外で）		0冊	1～3冊	4～6冊	7～9冊	10冊以上	無回答		
		小3	16	81	119	140	427	8		
		小6	50	335	258	100	187	2		
		中3	314	592	114	30	65	4		
5	あなたは主にどんなものを読みますか。（3つまで）		えほん	小説や物語	伝記や歴史	科学の本	スポーツや趣味の本	マンガ	ゲームの本	無回答
		小3	288	383	162	175	235	336	131	4
		小6	93	613	312	103	253	493	106	6
		中3	68	776	112	35	279	573	83	17

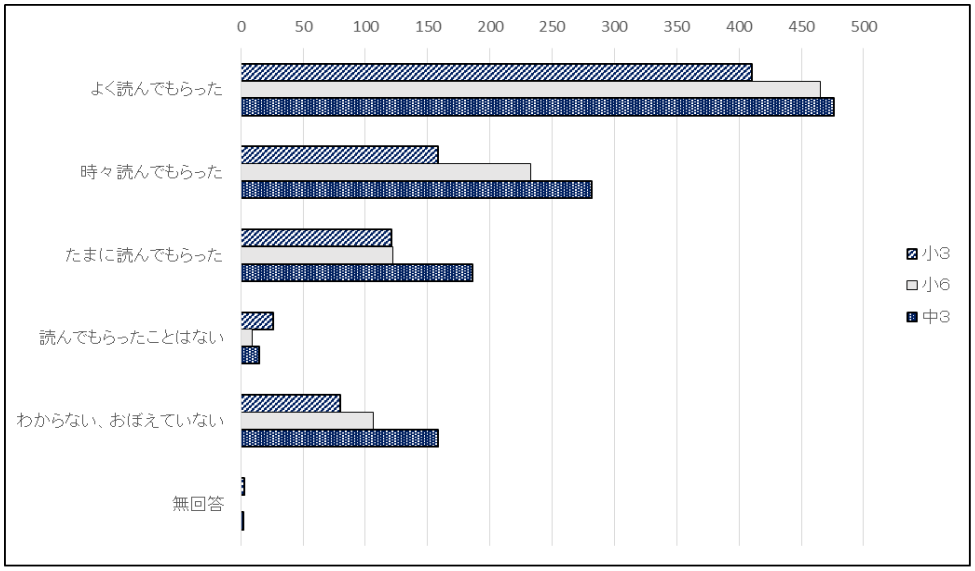
6	読みたい本はどのようにして手に入れますか。（いくつでも） （教科書・マンガ・雑誌以外で）		学校図書館や学級文庫で借りる	市の図書館で借りる	友達に借りる	買う	わからない	無回答		
		小3	443	290	96	410	69	3		
		小6	653	371	158	570	47	6		
		中3	341	181	208	876	85	3		
7	あなたは自分の読む本をどのようにして選んでいますか。（教科書・マンガ・雑誌以外で）		自分で選ぶ	先生のすすめで	家族のすすめで	友達のすすめで	無回答			
		小3	693	33	99	69	8			
		小6	865	30	91	121	7			
		中3	1,014	27	73	147	16			
8	あなたは授業以外で学校図書館をどのくらい利用したことがありますか。		週1回くらい	月1回くらい	半年に1回くらい	年に1回くらい	利用したことはない	無回答		
		小3	420	195	62	53	55	14		
		小6	385	242	133	111	63	2		
		中3	195	160	191	304	267	5		
9	授業以外で学校図書館を利用したことがある人だけ答えてください。あなたは授業以外で学校図書館をなんのために利用しましたか。（いくつでも）		調べものをするため	本を借りるため	本を読むため	友達とおしゃべりするため	学校図書館の先生がいるから	わからない、おぼえていない	無回答	
		小3	320	336	434	22	34	31	36	
		小6	223	514	535	34	20	45	36	
		中3	80	363	379	139	15	119	56	
10	あなたは市の図書館をどのくらい利用しますか。		週1回くらい	月1回くらい	半年に1回くらい	年に1回くらい	利用しない	無回答		
		小3	167	208	133	146	130	15		
		小6	59	226	268	212	168	2		
		中3	25	89	161	319	519	6		

子ども読書アンケート

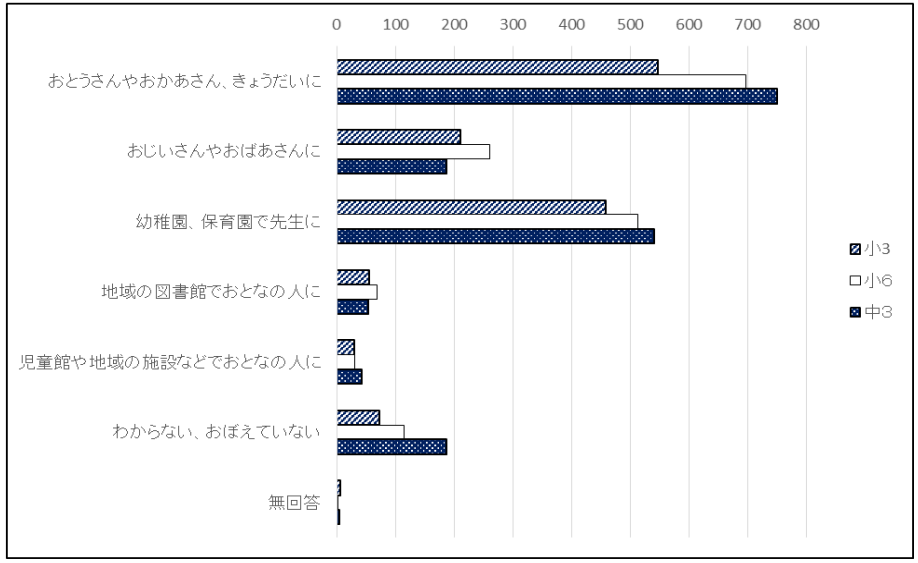
		小3		小6		中3	
3	読書が好きではないを選択したのはなぜですか	①読むのが面倒だから	3	①読むのがきらいだから・面倒だから	8	①読むのがきらい・好きじゃない・面倒だから	24
		②時間がないから	1	②字が細かくて読む気にならない	5	②おもしろくないから	10
		③借りたくない本を無理に借りさせるから	1	③読んでもわからない・おもしろくないから	3	③興味がない・すぐ飽きるから	7
				④おもしろい本がないから	2	④時間がないから	4
				⑤漢字が読めないから	1	⑤疲れるから	4
						⑥身体を動かすほうが好きだから	3
						⑦おもしろい本がないから	3
						⑧漢字がわからないから	1
						⑨文章が理解できなくなってくる	1
						⑩今の時代スマートホンなどで情報が入るから	1
						⑪わからない	2
8	学校図書館を利用したことはないを選択したのはなぜですか	①休み時間は外で遊びたいから	14	①時間がないから	9	①特に理由はない	25
		②時間がないから	6	②興味がないから・面倒だから	8	②読みたい本があれば買うから	10
		③興味がないから	2	③休み時間は外で遊びたいから	7	③面倒だから	23
		④行ったことがないから	2	④読みたい本がないから	4	④本が好きではないから	16
		⑤好きな本がないから	2	⑤授業で利用しているから	3	⑤読みたい本がないから	16
		⑥教室の本を読んでいるから	1	⑥自分の本を読みたいから	2	⑥興味がないから	14
		⑦読み終わらないから	1	⑦本を読みたいと思わないから	2	⑦教室から遠いから	13
						⑧返却日があって、返さないといけないから	12
						⑨時間がないから	11
						⑩自分で持ってきた本を読むから	10
						⑪かりるのは好きではないから	2
						⑫家に本があるから	2
						⑬市の図書館で借りるから	2
						⑭利用の仕方がわからないから	2
						⑮遊びたいから	1
						⑯限られた時間しか開いてないから	1
						⑰静かにひとりで読みたいから	1
						⑱静かすぎて落ち着かないから	1
						⑲人が触った本をあまり触れないから	1

		小3		小6		中3	
10	市の図書館を利用しないを選択したのはなぜですか。	①時間がないから	29	①時間がないから	34	①遠いから	110
		②遠いから	11	②行く気にならないから・面倒だから	32	②行く気にならない・面倒くさいから	92
		③家族が連れて行ってくれないから	10	③遠いから	26	③本に興味がない・読まないから	54
		④行く気にならないから・面倒だから	7	④学校図書館を利用するから	12	④時間がないから	39
		⑤図書館の場所がわからないから	4	⑤本を読まないから	10	⑤読みたい本は買うから	22
		⑥家に本があるから	6	⑥本を買ってもらうから	9	⑥いい本がないから	17
		⑦本を買ってもらうから	3	⑦図書館の場所がわからないから	7	⑦行く機会がなかったから	17
		⑧好きな本・おもしろい本がないから	3	⑧好きな本・おもしろい本がないから	6	⑧学校にあるから	11
		⑨行ったことがないから	3	⑨家族が連れて行ってくれないから	2	⑨家に本があるから	7
		⑩わからない	3	⑩家に本があるから	1	⑩場所がわからないから	7
		⑪学校図書館を利用するから	1			⑪他の方法で情報を得られるから	2
		⑫本を読まないから	1			⑫読みたい本はほとんど読んだから	2
						⑬借りたら返さないといけないから	6

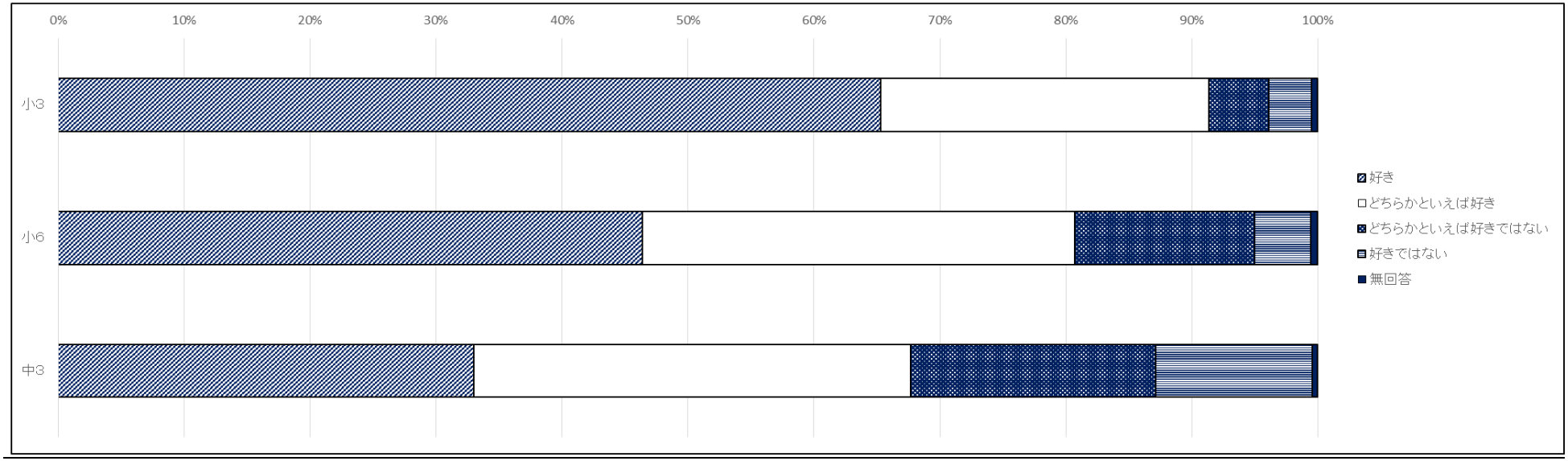
1．あなたは小さい頃、絵本や本を読んでもらいましたか



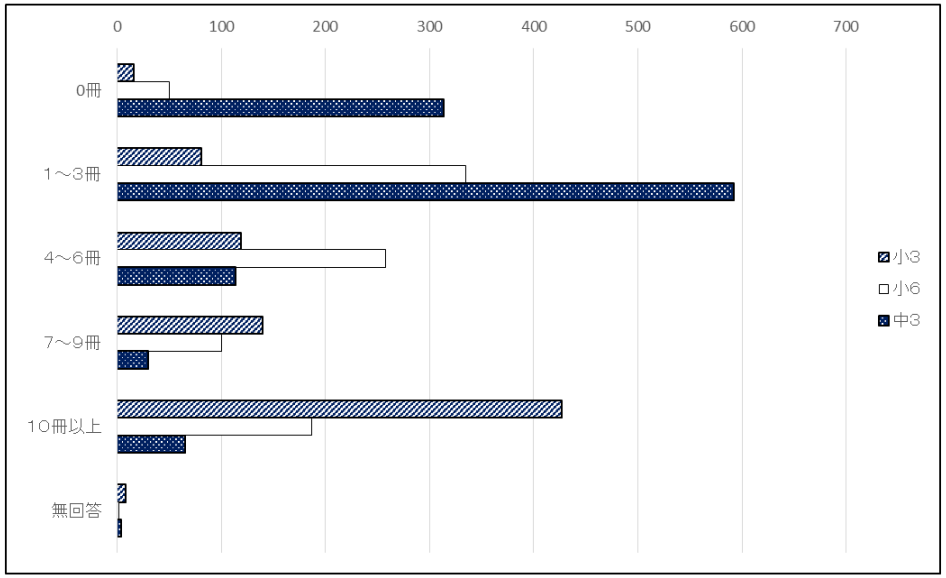
2．それは、誰に読んでもらいましたか。



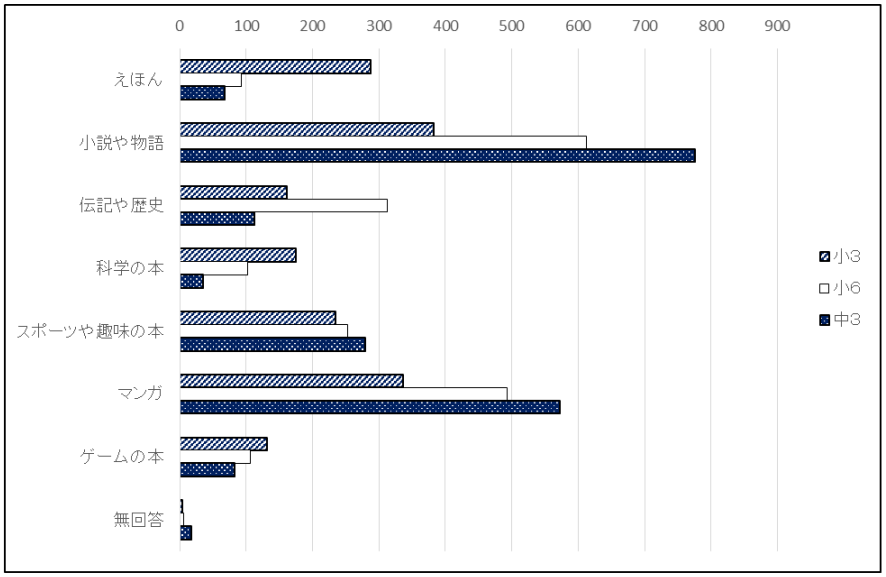
3．読書が好きですか。



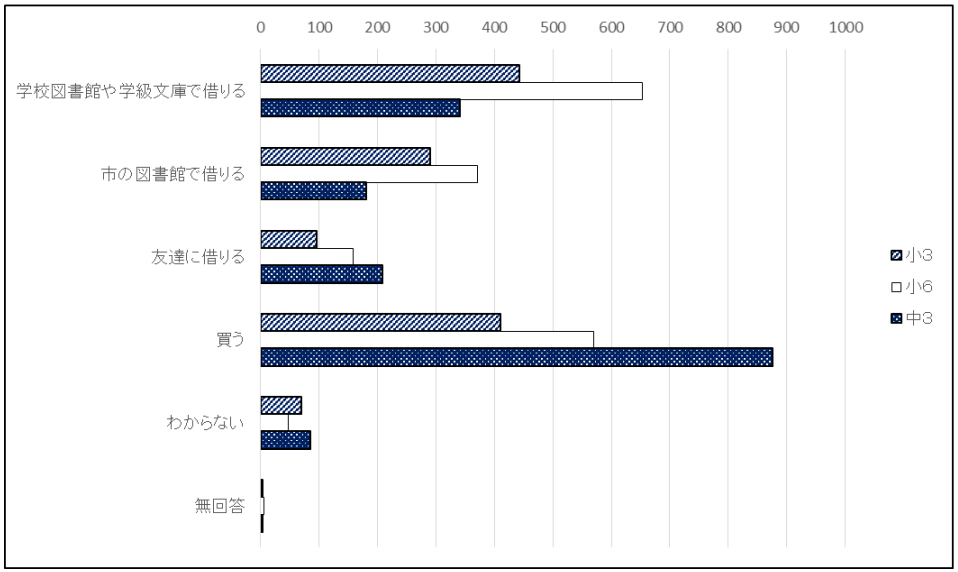
4．この6月中で何冊ぐらい本を読みましたか。（教科書・マンガ・雑誌以外で）



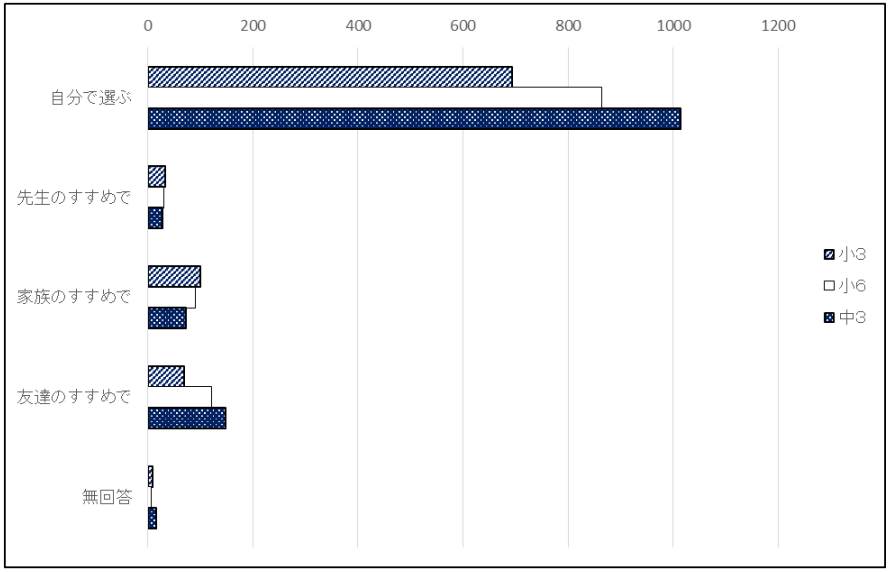
5．あなたは主にどんなものを読みますか。（3つまで）



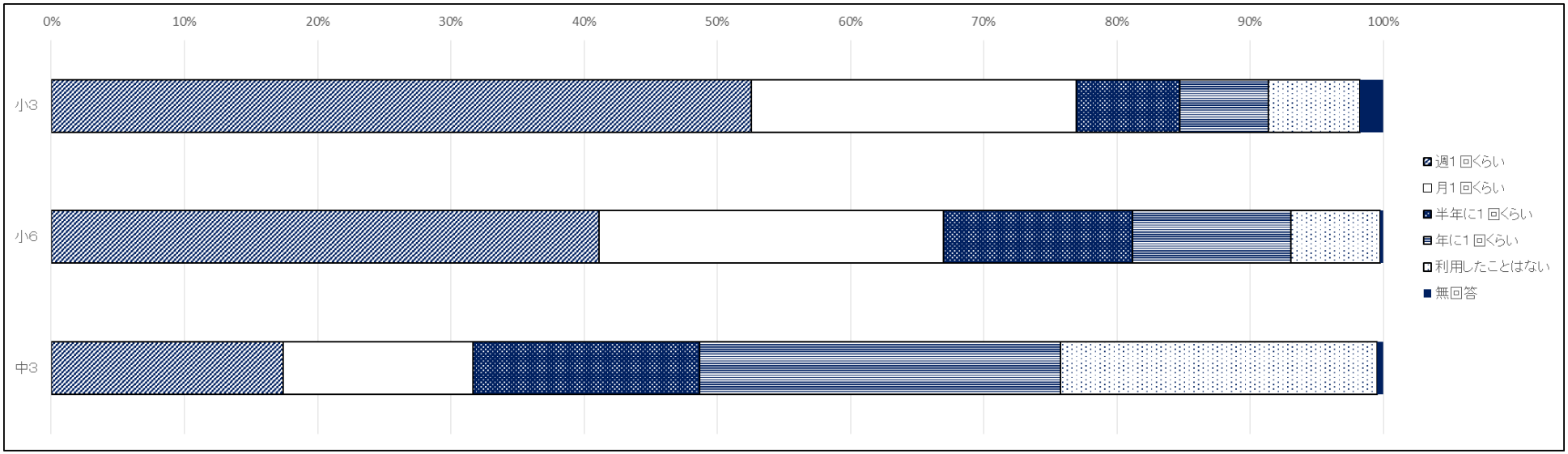
6．読みたい本はどのようにして手に入れますか。（いくつでも）（教科書・マンガ・雑誌以外）



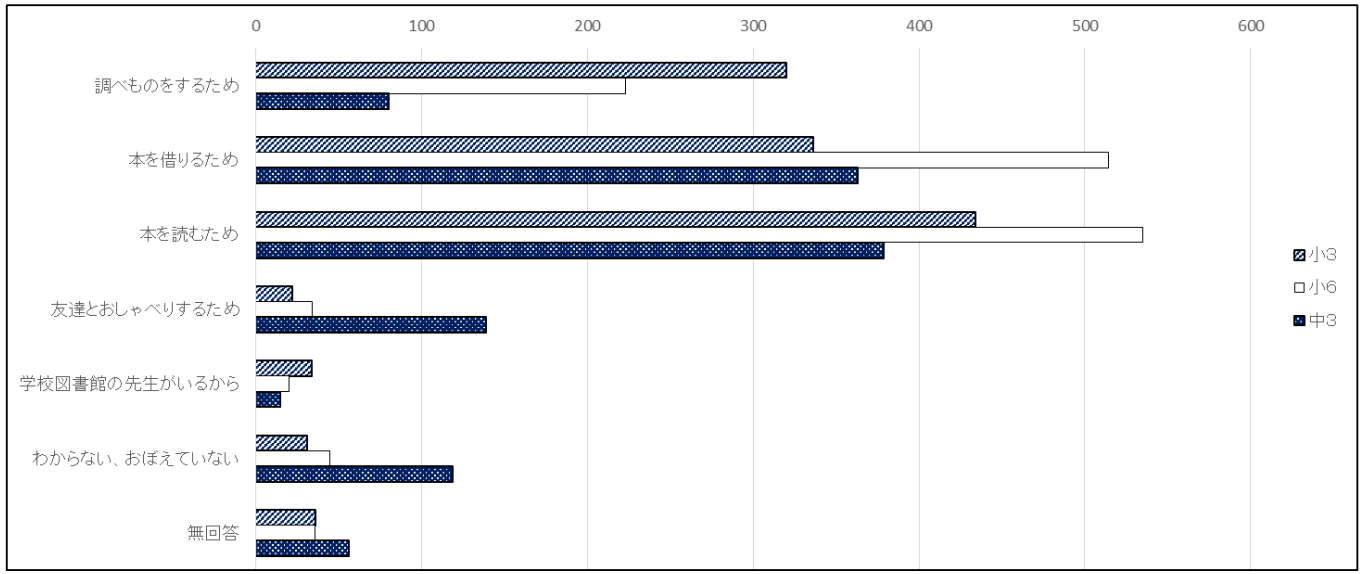
7．あなたは自分の読む本をどのようにして選んでいますか。（教科書・マンガ・雑誌以外）



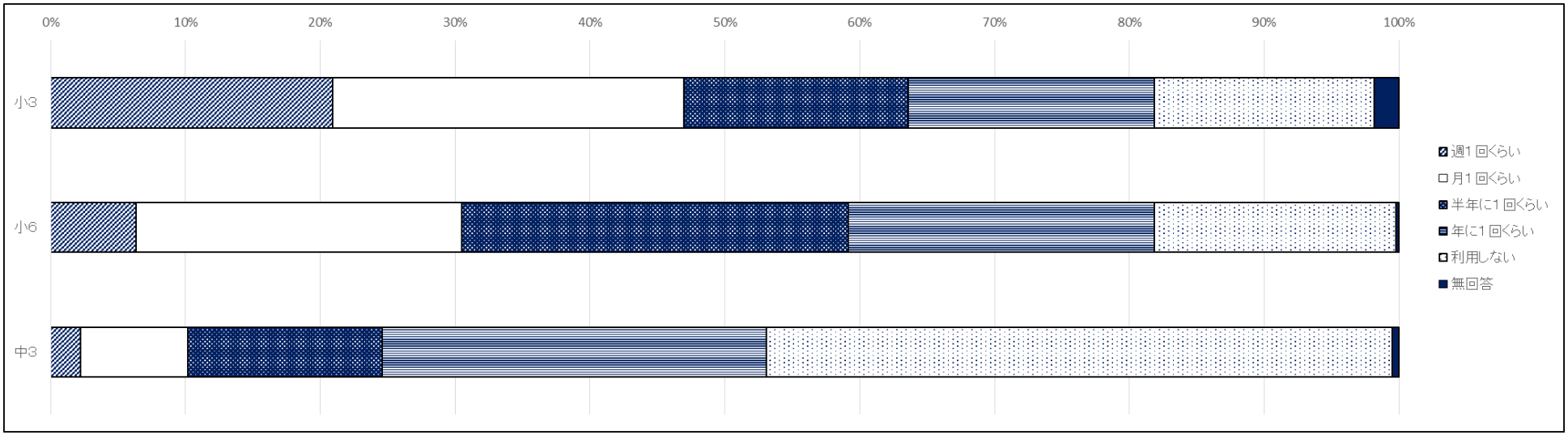
8. あなたは授業以外で学校図書館をどのくらい利用したことがありますか。



9．授業以外で学校図書館を利用したことがある人だけ答えてください。あなたは授業以外で学校図書館をなんのために利用しましたか。（いくつでも）



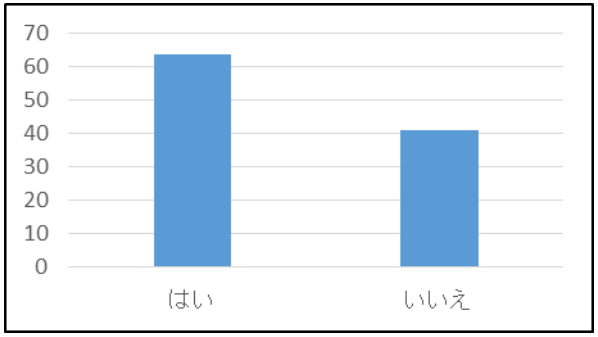
10.　あなたは市の図書館をどのくらい利用しますか。



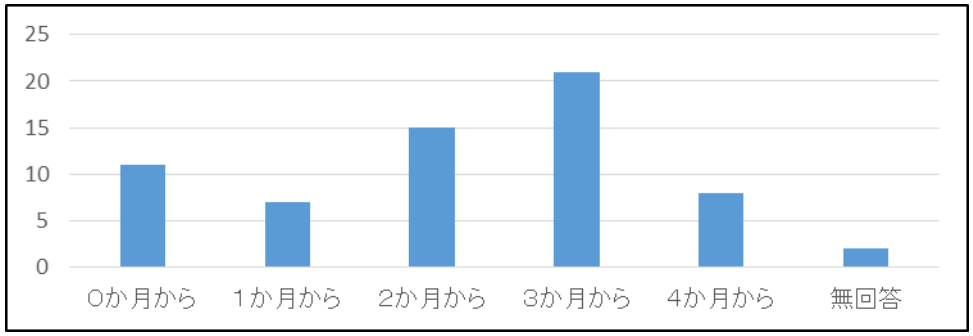
4か月健診アンケート

①	お子さんに絵本を読んであげていますか	はい	いいえ				
		64	41				
	はじめて読んであげたのは	0か月から	1か月から	2か月から	3か月から	4か月から	無回答
		11	7	15	21	8	2
		ア	イ	ウ	エ	オ	
②	読んであげている絵本は	家にあった	購入した	図書館で借りた	その他		
		48	15	5	7		
③	どのくらいの頻度で読んであげていますか	毎日	週3～4日	週1～2日	時々	決まっていない	
		16	9	4	13	23	
④	主に読んであげている人は誰ですか	母	父	祖母	祖父	その他	
		61	13	6	1	6	
⑤	主にいつ読んでいますか	夜寝る前	日中	決まっていない			
		10	37	22			
⑥	読んでいない理由は	時間がない	絵本がない	どれを読んでいいかわからない	まだ早いから	その他	
		14	4	4	25	5	
⑦	ご意見等						

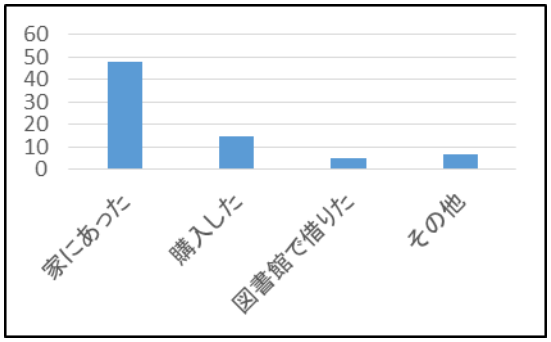
①お子さんに絵本を読んであげていますか



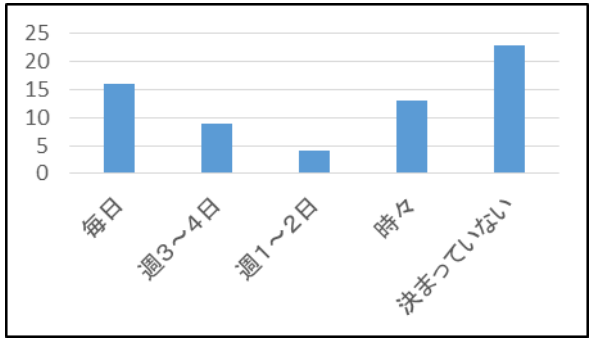
はじめて読んであげたのは



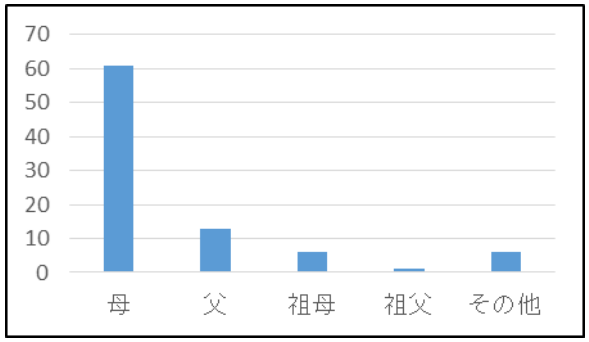
②読んであげている絵本は



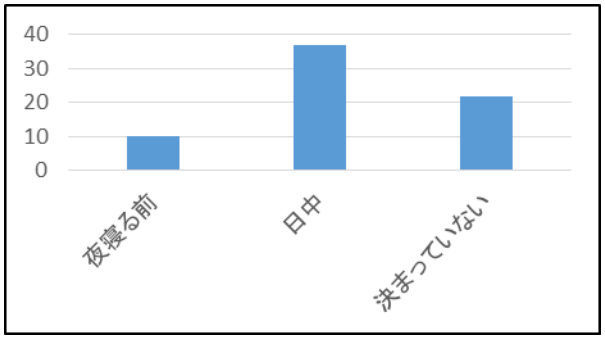
③どのくらいの頻度でよんであげていますか



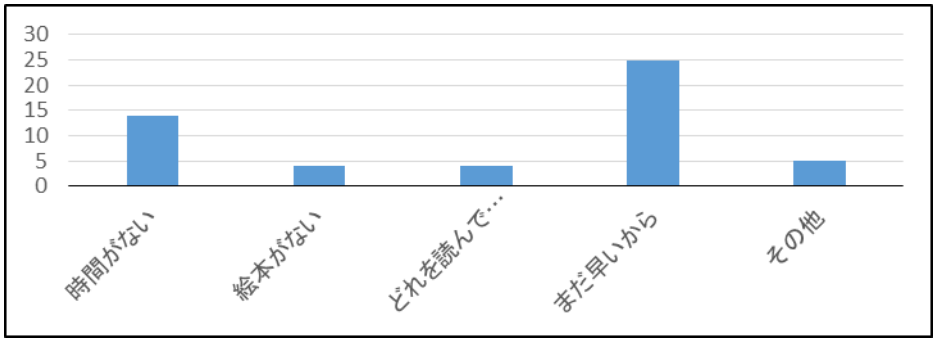
④主に読んであげている人は誰ですか（受診児から見て）



⑤主にいつ読んでいますか



⑥読んでいない理由は



子どもの読書活動の推進に関する法律(平成 13 年法律第 154 号)

（目的）

第一条　この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

（基本理念）

第二条　子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

（国の責務）

第三条　国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

（地方公共団体の責務）

第四条　地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

（事業者の努力）

第五条　事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

（保護者の役割）

第六条　父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

（関係機関等との連携強化）

第七条　国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

（子ども読書活動推進基本計画）

第八条　政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

２ 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

３ 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

（都道府県子ども読書活動推進計画等）

第九条　都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に

関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。
２ 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。
３ 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。
４ 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。
（子ども読書の日）
第十条　国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。
２ 子ども読書の日は、四月二十三日とする。
３ 国及び地方公共団体は、子ども読書の日の趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。
（財政上の措置等）
第十一条　国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。
附則
この法律は、公布の日から施行する。

○　衆議院文部科学委員会における附帯決議
政府は、本法施行に当たり、次の事項について配慮すべきである。
一　本法は、子どもの自主的な読書活動が推進されるよう必要な施策を講じて環境を整備していくものであり、行政が不当に干渉することのないようにすること。
二　民意を反映し、子ども読書活動推進基本計画を速やかに策定し、子どもの読書活動の推進に関する施策の確立とその具体化に努めること。
三　子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、本と親しみ、本を楽しむことができる環境づくりのため、学校図書館、公共図書館等の整備充実に努めること。
四　学校図書館、公共図書館等が図書を購入するに当たっては、その自主性を尊重すること。
五　子どもの健やかな成長に資する書籍等については、事業者がそれぞれの自主的判断に基づき提供に努めるようにすること。
六　国及び地方公共団体が実施する子ども読書の日の趣旨にふさわしい事業への子どもの参加については、その自主性を尊重すること

第２次子ども読書活動推進計画策定までの経過

日時	内容
平成29年6月23日	「第１回子ども読書活動推進計画策定委員会」 ・委嘱状公布 ・委員長・副委員長選出 ・庁内各課へのアンケートについて ・第２次子ども読書活動推進計画のスケジュールについて ・施設及び子どもへのアンケート実施について
平成２９年７月～	施設及び子どもへのアンケート調査実施
平成29年9月28日	「教育委員会９月定例会議」 ・子ども読書活動推進計画素案について中間報告
平成29年11月1日	「第２回子ども読書活動推進計画策定委員会」 ・子ども読書活動推進計画素案及びアンケート結果について
平成29年11月15日	「第２回図書館協議会」 ・子ども読書活動推進計画素案及びアンケート結果について
平成３０年１月４日～ １月３１日	パブリックコメント実施
平成30年2月21日	「第３回子ども読書活動推進計画策定委員会」 ・子ども読書活動推進計画最終（案）について ・パブリックコメント報告について
平成30年3月15日	「第２回社会教育委員会議」 ・子ども読書活動推進計画（案）について
平成30年3月29日	「教育委員会3月定例会議」 ・子ども読書活動推進計画（案）について

第２次富田林市子ども読書活動推進計画策定委員名簿

任期　平成 29 年６月～計画策定まで

<table>
<tr><th>区　分</th><th>氏　名</th><th colspan="2">備　考</th></tr>
<tr><td rowspan="3">市民委員代表</td><td>鈴木　善勝</td><td colspan="2">図書館協議会委員長</td></tr>
<tr><td>藤井　郁子</td><td colspan="2">富田林子ども文庫連絡会代表</td></tr>
<tr><td>井上　麻子</td><td colspan="2">PTA代表</td></tr>
<tr><td>識見を有する者</td><td>松井　純子</td><td colspan="2">大阪芸術大学</td></tr>
<tr><td rowspan="3">関係機関代表</td><td>中道　雅夫</td><td colspan="2">校長会代表</td></tr>
<tr><td>畑　光行</td><td colspan="2">幼稚園長会代表</td></tr>
<tr><td>辻野　由貴子</td><td colspan="2">保育園長会代表</td></tr>
<tr><td rowspan="8">行政関係者</td><td>喜田　浩二</td><td>健康推進部</td><td>健康づくり推進課長</td></tr>
<tr><td>岸岡　浩美</td><td rowspan="2">子育て福祉部</td><td>こども未来室長</td></tr>
<tr><td>正木　邦彦</td><td>児童館長</td></tr>
<tr><td>山本　三男</td><td>教育総務部</td><td>教育総務課長</td></tr>
<tr><td>古村　勝俊</td><td>教育指導室</td><td>教育指導室次長</td></tr>
<tr><td>西田　幸司</td><td rowspan="3">生涯学習部</td><td>生涯学習課長</td></tr>
<tr><td>尾谷　成子</td><td>中央図書館長</td></tr>
<tr><td>上田　栄美</td><td>金剛図書館長</td></tr>
</table>

発 行 年 月：平成 30（2018）年３月
発行・編集：富田林市教育委員会　生涯学習部　中央図書館
〒584-0093　富田林市本町 16 番 28 号
TEL　0721-25-4921
FAX　0721-25-4932
http://www.city.tondabayashi.lg.jp/site/library/